

PROJECT MANAGEMENT SYMPOSIUM JAPAN 2025

PM シンポジウム 2025

「次世代の日本を共に描く」

～今、必要とされるプログラム&プロジェクトマネジメント～



9 / 4 Day 1 THU – 5 Day 2 FRI

タワーホール船堀 (大ホール)

主催：特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)

後援：経済産業省(METI) 予定 / 一般財団法人エンジニアリング協会(ENAA) 予定

独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO) 予定 / 独立行政法人情報処理推進機構(IPA) 予定

一般社団法人 PMI 日本支部(PMIJ) 予定 特定非営利活動法人ITコーディネータ協会(ITCA) 予定

一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会(JUAS) 予定

ハイレックス
開催

会場&ライブ配信&
オンデマンド配信

詳細はWEBページを
ご確認ください

PMシンポジウム 2025

PMシンポジウム2025大会テーマ

「次世代の日本を共に描く」

～今、必要とされるプログラム&プロジェクトマネジメント～

失われた30年がようやく終わり、新しい日本作りへの動きが活発化してきている。民間ではDXと称し、次世代の日本を作るべくイノベーション、業務改革等新しい取組みが本格化、また行政関係ではデジタル庁創設によるデジタル変革(電子政府)や地方行政のデジタル化(行政改革)が活発化している。

こうした中、PMAJは2025年に創立20周年となる。共創型マネジメント体系であるP2M(プログラム&プロジェクトマネジメント)標準ガイドブック改訂4版を市場の変化に合わせ2024年に発刊、知識体系を再整備し、DXを下支えする環境を強化した。次世代の日本を共に描き、今必要とされるプログラム&プロジェクトマネジメントを考察する。

PMシンポジウム2025 実行委員長からのメッセージ

2025年、PMAJは2005年の創立以来20周年となります。その20周年記念に当たり、今年のPMシンポジウム2025では会場であるタワーホール船堀にて以下のような記念イベントを行います。

●記念イベント

1. 記念講演：特別講演にて歴代の3理事長がPMAJの現在、過去、未来について語ります。
2. 2F展示場に20周年記念展示、5F展示場にてベンダー展示。またDAY1の講演終了後に懇親会を行い参加者のネットワーキングの場を作ります。

今年のPMシンポジウム2025ではハイフレックス開催(会場、オンライン、オンデマンド)します。今年も幅広いPM分野を網羅、ワンストップで興味・関心のある講演を選択できます。全体では50講演用意させて頂きました。

ぜひ会場のタワーホール船堀までお越し下さい。会場でお待ちしています。

PMAJ副理事長兼PMシンポジウム実行委員長
早川 喜彦



各種ポイントの発行について

発行ポイントは次のとおりです。

CPU ■ Day1 : 12ポイント ■ Day2 : 12ポイント

PDU ■ Day1 : 6PDU ■ Day2 : 6PDU

PMP®資格更新に必要なポイント(PDU)を取得できます

ITC実践力ポイント ■ Day1 : 1.5ポイント ■ Day2 : 1.5ポイント

[PMI][PMP][PMBOK]は、Project Management Institute, Inc.(PMI)の登録商標です。

[IBABOK]は、International Institute of Business Analysis (IIBA)の登録商標です。

[PMSP][PRINCE2][ITIL]は、AXELOS Limitedの登録商標です。

[IPMA][ICB][IOCB][IPMA Delta]は、International Project Management Association (IPMA)の登録商標です。

[PMAJ][P2M][PMR][PMS]は、日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)の登録商標です。

KN-01

DXの課題

9:30~10:30

～DXの時代のPMの役割～

デジタル庁 国民向けサービスグループ グループ長／統括官 村上 敬亮 P

DX推進の鍵は想像力だ。「こんな横の連携をすれば、こんな効果がえられるのではないか。」既存組織の縦割りを越えて、想像力が先回りしていければ、デジタルは、これまでにない効果を生み出す。しかし、DXを進めるプロジェクトと組織管理は相性が悪い。組織を越えた横串のプロジェクトにこそDXの意義があるが、それゆえにこそ、プロジェクトの進め方も難しい。PMは本来、よくフォーミュレートされたチームでこそ機能する。それゆえに、組織横断的なプロジェクトのPMには固有の難しさがつきまとう。組織の壁を積極的に越えていくチームアップとPMの実践に求められるものは何か。Well-Beingを切り口にマクロのPDCAを回すことで、事業の縦割りを越えた新たなチームアップの切り口が設計できないかなど、DXの時代にPMに求められるものと、その背景について検討してみる。



【講師略歴】

1967年、東京都出身。1990年、通商産業省入省。IT政策に長らく携わった後、クールジャパン戦略の立ち上げ、COP15,16等の温暖化国際交渉、再生可能エネルギーの固定価格買取制度創設等に従事。2014年より内閣官房・内閣府で、地方創生業務や国家戦略特区業務に従事し、2020年7月より中小企業庁経営支援部長。2021年9月より現職。

KN-02

大学発スタートアップ・エコシステムの現状と課題

9:30~10:30

開志専門職大学 学長

各務 茂夫 B

我が国のイノベーション創出に向けて大学や大学発スタートアップが大きな役割を担うことが期待されて久しい。2004年4月の国立大学法人化以降、この大きな期待にどれだけ応えることができているのか？東京大学関連ベンチャー企業数は600社を超えるまで及んでおり、2005年度に開講した「東京大学アントレプレナー道場」の修了生だけでも、これまでの20年間で150名に及ぶ起業家を輩出している。今や、周りを見渡せば、起業家、大学発スタートアップと遭遇することは決して珍しいことではなくなっている。一方で、創出されたスタートアップが新産業創造や雇用増という観点からどこまで大きなインパクトを持ち得ているのだろうか？本講演では、我が国の大学スタートアップ・エコシステムの現状を概観し、今後進展が求められる課題について提起したい。



【講師略歴】

開志専門職大学 学長／東京大学 特命教授。一橋大学商学部卒業。スイスIMD経営学修士(MBA)。米国ケースウェスタンリザーブ大学経営大学院 経営学博士(EDM)。ポストンコンサルティンググループを経て、1986年コーポレートディレクション(CDI)の設立に参画、取締役主幹等歴任。東京大学 教授 産学連携本部事業化推進部長、イノベーション推進部長、東京大学大学院工学系研究科教授・産学協創推進本部 副本部長等を経て、2025年4月学長就任。一般社団法人日本ベンチャー学会前会長

9/4
THU
Day
1

懇親会

17:50～19:00
(タワーホール船堀2階「瑞雲」)

- ・PMシンポジウム2025申込者は無料
- ・PMコミュニティ活性化の場としてご活用下さい
- ・お申込み時に「懇親会参加」を選択下さい

Live 9/4 ライブ配信／9/6～10/3 オンデマンド配信

9:20～9:30	開会挨拶
9:30～10:30	基調講演 [KN-01]DXの課題 ～DXの時代のPMの役割～ デジタル庁 村上 敬亮
10:45～11:45	主催者講演 [SP-11]PMAJ創立20周年の歩み ～歴代理事長とともにPMを振り返り将来を展望～ 日本プロジェクトマネジメント協会 田中 弘／光藤 昭男／加藤 亨
12:45～13:45	特別講演 [SP-12]富士通の次世代モダナイゼーション ～劇的に変化する先端のモダナイゼーションメソッド～ 富士通 伊井 哲也
14:00～15:00	特別講演 [SP-13]デジタル社会に必要な社会基盤づくり ～AIの力を活かすための基盤とは～ 独立行政法人情報処理推進機構(IPA) 平本 健二
15:15～16:15	特別講演 [SP-14]日本酒の「過去・今・未来」 ～ブランディングとビジョンで描く、酒蔵の未来像～ 宮坂醸造 宮坂 直孝
16:30～17:30	特別講演 [SP-15]新型コロナワクチン開発チームの奮闘 ～「一人ひとりの行動」が生み出すブレークスルー～ ファイザーR&D合同会社 斎藤 千紘

一般講演 9/4～10/3 オンデマンド配信

[PR] プログラムマネジメント(P2M)実践 [A-01]P2M標準ガイドブック改訂4版を一緒に勉強しませんか!? ～P2Mを学ぶSIGの活動紹介とP2M概説～ 会員活動 P2Mガイドブック第4版を学ぶSIG 加藤 亨	[PM] プロジェクトマネジメント実践 [A-02]品質保証プロセスへのAI活用の検証 エフサステクノロジーズ 林 成樹	[PM] プロジェクトマネジメント実践 [A-03]国際宇宙ステーション「きぼう」装置開発のPM ～様々なタイプの有人宇宙開発から学んだこと～ 宇宙航空研究開発機構 渡辺 英幸	[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [A-04]今、リーダーに求められる覚悟とは～最高のリーダー自身に求められる感性と行動力～ ビズソル 阿比留 真二
[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [A-05]部分最適から全体最適の経営へ～中長期に企業価値を向上させ続ける実践ROICマネジメント～ 日本CFO協会理事 日戸 興史	[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [A-06]赤字撲滅!3年間赤字プロジェクトゼロまでの道のり ～苦節10年・解明した6つのポイント～ システムインテグレータ 高橋 明子	[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [A-07]プロジェクトマネジメントの神話と幻想～膨大なデータと、科学的分析が示す進化への道程～ トヨタシステムズ 河路 裕司	[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [A-08]DX時代のリスクリング ～組織変革に必須なPMとアジャイルのスキル向上～ PMAJ会員活動 組織アジリティSIG 小原 由紀夫
[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [A-09]『秘密のエピソード』で学ぶPMBOK®第7版12の原理・原則 ～超多忙な4名のメンバの成果紹介～ PMAJ会員活動 PM/ノウハウ継承研究会SIG 藤田 亜樹子／西岡 浩晃／新谷 幸弘／奥田 智洋／中谷 一樹／吉野 均	[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [A-10]PMBOK®ガイド第7版概要解説及び今後の方向性について ～PMBOK®ガイドはどこに行くのか～ PMAJ会員活動 PM研究・研修部会 大槻 直彦	[BS] 戦略及びビジネスマネジメント [A-11]第4次産業革命 エグゼクティブ ビジネススクールとプロジェクトマネジメント人材育成 北九州工業高等専門学校 久池 井 茂	[BS] 戦略及びビジネスマネジメント [A-12]複雑化する社会課題プロジェクトに求められるマネジメントの実践例 ～ビジネスアジリティと人材育成がプロジェクトを成功に導く～ Ridgelinez 大久保 知洋／竹内 健
[BS] 戦略及びビジネスマネジメント [A-13]AIで実現する業務変革 ～AGENT for AI agents～ 富士通 土井 悠哉	[HR] 人材育成・働き方改革 [A-14]自ら考え行動する「指示ゼロ経営」の実装法 ～リーダーを1人で抱え込む苦悩から解放する～ Tao and Knowledge 米澤 晋也	[HR] 人材育成・働き方改革 [A-15]働き方のパラダイムシフト ～意図を持って働くとは～ プロノイア・グループ/TimeLeap/GA Technologies Piotr Feliks Grzywacz	[HR] 人材育成・働き方改革 [A-16]PM道高段者を極める ～プロジェクト・マネージャのコンピテンシー研鑽～ 日立アカデミー 坂上 慶子
[HS] ヒューマンスキル [A-17]ワクワクする日本の未来をデザインする ～PMIに求められる「大義」と「Will」～ PMマイスター 竹林 一	[SH] その他人文科学分野 [A-18]脳を休めるマインドフルネス ～デジタル時代のストレス対処法～ 一般社団法人マインドフルネス瞑想協会 吉田 昌生	[HS] ヒューマンスキル [A-19]Are you a Friction Generator or a Friction Fixer? ～摩擦を生む人、解決する人～ ★英語講演★ Orange S.A. Yasmina Khelifi	

Day1/Day2共通 9/4～10/3 オンデマンド配信 (本シンポジウムにお申込みされた方は、皆様ご視聴頂けます) *ポイントの付与はありません

[EX-01]「Contruent」を活用した管理会計の紹介 ～プロジェクトの複雑なコスト管理を、手間なく正確に行うための新しい手法をご紹介～ TIS千代田システムズ 池田 竜太郎	[EX-02]週休3日で挑むプロジェクトマネジメントの最適化 アジャイルウェア 小林 稔央	[EX-03]P2Mプロジェクトマネジメント資格をとうろ! ～P2M資格(PMC、PMS)と対策講座のご紹介～ パナソニック ソリューションテクノロジー 中島 貴代子	[EX-04]モデルベースのプロジェクトデザイン ～TeamPortで実践するプロジェクトデザイン～ グローバルプロジェクトデザイン・ジャパン 池 大	[EX-05]PM教育ツール「ピンぼっくん」のご紹介 ～スマホで学習できる問題集～ PMアソシエイツ 鈴木 安而
--	--	--	---	--

9/5
FRI
Day
2

Live 9/5 ライブ配信／9/7～10/3 オンデマンド配信

9:30～10:30	基調講演 [KN-02] 大学発スタートアップ・エコシステムの現状と課題 開志専門職大学 各務 茂夫	B
10:45～11:45	特別講演 [SP-21] プロダクトの価値を最大化する思考法 ～変化する市場で求められる視点とは～ Tably 及川 卓也	B
12:45～13:45	特別講演 [SP-22] DXを推進するためには ～組織の中で成功といわれるプロジェクトを率いるプロジェクトマネージャーの役割～ デジタル庁 住田 智子	P
14:00～15:00	特別講演 [SP-23] プロジェクト・マネジメントから見た「設計論」の課題 ～モダンPMにおけるミッシング・ピースを考える～ 日揮ホールディングス 佐藤 知一	W
15:15～16:15	特別講演 [SP-24] 日本起源のリーンとアジャイルで経営を変革する ～戦略と実行を繋ぐポートフォリオマネジメント～ Scaled Agile-Japan合同会社 古場 達朗／中谷 浩晃	P
16:30～17:30	特別講演 [SP-25] iPS細胞を活用した個別化がん免疫治療 ～アカデミアにおける医療開発とそのマネジメント～ 京都大学iPS細胞研究所 金子 新	W

一般講演 9/5～10/3 オンデマンド配信

[PR] プログラムマネジメント(P2M) 実践 [B-01] データドリブンによるPMスタイルの変革 富士通 藤森 正晴	[PR] プログラムマネジメント(P2M) 実践 [B-02] 開発技術者は機械じゃない ～人間の行動特性を理解したマネジメントがプロジェクトを救う～ ゴールシステムコンサルティング 渡辺 薫	[PR] プログラムマネジメント(P2M) 実践 [B-03] プログラムマネジメントの実践事例とその紹介活動 ～PM普及推進活動におけるPMR資格者の役割～ PMAJ会員活動 APC 枝達 肇	[PM] プロジェクトマネジメント実践 [B-04] インドネシア銅製錬プロジェクトの紹介 ～数々の困難を乗り越え短納期で完工達成～ 千代田化工建設 土田 真	W
[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [B-05] 翻訳・ローカライゼーションプロジェクトにおける生成AI活用術 立教大学 山田 優	[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [B-06] 基幹システム開発におけるハイブリッド開発の適用術 ～徹底的にこだわったユーザ中心設計～ 講談社 小山 佳祐	[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [B-07] 生成AIが拓く次世代Web開発の変革 ～実践事例で学ぶ計画・実装・マネジメントの手法～ PMAJ会員活動 WTech SIG 石川 博子	[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [B-08] Standish Report解説と実践活用のヒント ～成功の重要要因:意思決定スピード、アジリティ～ PMAJ会員活動 PM研究・研修部会 大泉 洋一／田中 繁光／日吉 春華	W
[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [B-09] PRINCE2第7版の概要紹介 ～計画プラクティスの特徴と活用ポイント～ PMAJ会員活動 PM研究・研修部会 木下 雅治	[BS] 戦略及びビジネスマネジメント [B-10] AIエージェントが変革する経営戦略 ～プロセスイノベーションが創り出す競争優位性～ 電脳バンク 浦田 敏	[BS] 戦略及びビジネスマネジメント [B-11] Global Delivery Assurance ～グローバル品質マネジメントシステムの構築～ NTTデータグループ 豊嶋 淳史	[HR] 人材育成・働き方改革 [B-12] プロトタイプングで新価値を描く！ イノベーション創出のためのプロジェクトマネジメント 大阪大学フォーサイト 加藤 夏来	W
[HR] 人材育成・働き方改革 [B-13] プロジェクト協創のベンダーマネジメントへの転換 ～マインドチェンジをいかに実現するか～ インサイトパワーズ 辻本 光邦	[HR] 人材育成・働き方改革 [B-14] プロジェクトマネジメント選手名鑑 ～PM人材育成計画の作り方～ マネジメントソリューションズ 横地 真吾／鶴山 武士	[HR] 人材育成・働き方改革 [B-15] コンピテンシーの高いプロジェクトマネージャーを育成する プロジェクトマネジメントオフィス 鈴木 道代	[HR] 人材育成・働き方改革 [B-16] P2M社会人博士取得のススメ PMAJ会員活動 博士人材と指導教員の醸成SIG 久保 裕史	P
[HR] 人材育成・働き方改革 [B-17] DXを活用した新規事業立ち上げプログラム ～P2Mのミッションプロファイリングによる戦略的アプローチ～ PMマイスター 濱 久人	[IN] イノベーション [B-18] AI適用による自治体業務のDX事例 ～滞納整理支援AI～ 富士通Japan 繁田 聡一	[PS] プロジェクトマネジメントスキル強化 [B-19] 世界のPMOの動向 ～世界のPMOが直面している課題～ システムコストマネジメント 片江 有利		B

[EX-06] 日立アカデミーのPM教育への取り組みの紹介 ～PMのための実践的研修の提供～ 日立アカデミー 畦元 隼	[EX-07] ウェッパアイが提唱する次世代プロジェクトマネジメント ～情報統合による全体最適とAI活用の未来～ ウェッパアイ 森川 勇治	[EX-08] 組織をダメにするのは誰か？ ～チームと職場を腐らせる「会社の害虫」の正体と対処法～ Goldratt Japan 岸良 裕司	[EX-09] 実践的 プログラムマネジメント経営 ～価値共創時代のイノベティブ企業への秘策～ 日本プロジェクトマネジメント協会 加藤 亨	
---	---	--	---	--

主催者講演 SP-11 PMAJ 創立 20 周年の歩み

～歴代理事長とともに PM を振り返り将来を展望～

10:45～11:45

日本プロジェクトマネジメント協会 歴代理事長

田中 弘／光藤 昭男／加藤 亨 B



日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)は、2005年10月5日に、プロジェクトマネジメント資格認定センター(PMCC)と日本プロジェクトマネジメント・フォーラム(JPMF)が統合して発足し、「PM実践家の育成とPMの普及を通して、わが国の国際競争力の強化や活力ある経済社会の発展など、公益の増進に寄与すること」をミッションとして掲げ、これまで20年にわたり活動を継続してきた。

また、その論理的基盤である、P2M標準ガイドブックは、2001年11月に「日本企業を

『ものづくり』中心の発想から転換して、『仕組みづくり』による再生」を目指して発行され、以降改訂を重ね、2024年9月に改訂4版を発行した。

今回の講演では、PMAJのこれまでの活動を振り返り、PMCCとJPMF統合の意義、産学官連携や、グローバルPM活動などの意義を振り返り、その中から今後のPMAJの果たすべきミッションについて紹介する。

【講師略歴】

田中 弘：JPMF 筆頭副会長・会長を経て、2005年から11年までPMAJ初代理事長。日揮ホールディングス出身／光藤 昭男：2011年から2019年までPMAJ 理事長、東洋エンジニアリング、荏原製作所出身／加藤 亨：2017年から現在まで理事長、千代田化工建設、千代田ユーテック出身

特別講演 SP-12 富士通の次世代モダナイゼーション

～劇的に変化する先端のモダナイゼーションメソッド～

12:45～13:45

富士通株式会社 モダナイゼーションナレッジセンター長

伊井 哲也 W



レガシーな基幹情報システムが稼働する企業にとって、安全・確実に最適なDX基盤に移行すること、結果として最新テクノロジーを実装したデータ利活用・事業継続性確保・変化対応力強化を加速することが重要なテーマになっている。

本セッションでは、富士通自身が取り組んだモダナイゼーションの実践とその成果、メインフレームとUNIXの販売を終息するに至った事業意図をご紹介しますと同時に、

自動化ツールを最大限活用した先進のモダナイゼーションサービスとメソッドロジーを具体的に紹介する。併せて生成AIの実装により今後数年で大きな変革を迎えると言われるシステムインテグレーション事業モデルの将来についても触れ、次世代のモダナイゼーションの在り方についてご紹介する。

【講師略歴】

1990年富士通入社。都市銀行様アカウント、データセンター＆クラウド事業推進を担務、2012年よりシンガポール駐在。帰任後、2019年データセンター事業本部長、2023年インフラ＆ソリューションセールス本部長を経て2024年より現職、全社モダナイゼーション事業をリード。

特別講演 SP-13 デジタル社会に必要な社会基盤づくり

～AIの力を活かすための基盤とは～

14:00～15:00

独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) デジタル基盤センター長/AIセーフティ・インスティテュート 副所長・事務局長

平本 健二 W



社会のデジタル化が進み、誰もがその恩恵を受け、そして、AIの急速な進歩により、生活や仕事の姿が大きく変わろうとしている。こうした中で、AIに注目が集まるが、AIの力を活かすためには、多様な品質が高く十分な量のデータが不可欠である。また、デジタル社会は、ソフトウェア・デファインド社会でもあり、各種機器やサービスが継続的にアップデートをして社会の変化に対応している。IPA デジタル基盤セン

ターでは、デジタル社会にデータを供給し、使いこなすためのデジタル基盤の整備を行うとともに、社会変化に的確に対応するためのソフトウェアエンジニアリング、デジタル基盤を活用してデジタルトランスフォーメーションを起こす方法論の開発などを行っている。本講演では、今後の社会変化を展望するとともに、そのためのデジタル基盤センターの取り組み、社会や企業で取り組むべき方向性などの解説を行う。

【講師略歴】

Slerから、経済産業省、デジタル庁等を経て現職。デジタル庁で政府のデータ戦略の責任者を務め、戦略から環境整備、サービス開発、国際調整等を推進。2023年から、IPAで、データ環境に加え、ソフトウェアエンジニアリング、デジタルトランスフォーメーション等のデジタル社会の基盤構築を、グローバルな視点で推進。

特別講演 SP-14 日本酒の「過去・今・未来」

～ブランディングとビジョンで描く、酒蔵の未来像～

15:15～16:15

宮坂醸造株式会社 代表取締役社長

宮坂 直孝 B



・酒蔵が辿ってきた歴史とブランディング
清酒酵母「七号酵母」が宮坂醸造の蔵で発見されてから、79年。発祥蔵として、この酵母の特徴を活かして、どのように「真澄」のブランディングをしてきたのか、蔵元としての葛藤を述べる。

・日本酒を通して明るい未来を築くためのビジョン
和やかな一つの食卓はやがて世界の平和へ繋がると、私たちは真剣に考えている。その羅針盤となるビジョン「四つの夢」を具体的に掘り下げ、実現していく道筋について語る。

【講師略歴】

清酒「真澄」蔵元。1956年長野県諏訪市生まれ。慶應義塾大学商学部卒業後、米国ゴンザガ大学でMBA取得。2004年に香港に子会社を設立し海外展開を推進。日本吟醸協会理事等を経て、2022年から長野県酒造組合会長として県内酒蔵のイメージアップに尽力。観光振興や日本酒業界の発展に貢献してきた。

特別講演 SP-15 新型コロナワクチン開発チームの奮闘

～「一人ひとりの行動」が生み出すブレークスルー～

16:30～17:30

ファイザーR&D合同会社 プロジェクト・マネジメントグループ1 部長

斉藤 千紘 P



2019年12月に中国で初めて報告され、瞬間に全世界へ広がりはパンデミックを引き起こした新型コロナウイルス感染症は、私たちの生活やビジネス環境を大きく変えた。本セッションでは、日に日に感染が拡大し、大きな不安とプレッシャーを抱えながらも成功を信じて奮闘した2020年当時のワクチン開発を、プロジェクトマネジメントの視点から振り返る。ワクチン開発から得られた教訓は、危機的状況下での迅速

な対応と科学的研究の進展がいかに重要か、そして最終的には「一人ひとりの行動」がブレークスルーを生み出すということである。新型コロナワクチンの開発は、それまで誰も成し遂げたことのないようなとても高い目標を掲げること、人間の創造性が驚くほどに解放されることを実感したプロジェクトであった。

【講師略歴】

2000年にファイザー株式会社へ入社。疼痛・循環器領域の臨床開発においてプロジェクトマネージャーのキャリアをスタートし、現在は、主に内科系疾患ならびに感染症領域における医薬品・ワクチン開発に携わっている。

[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践

A-01

P2M標準ガイドブック改訂4版を一緒に勉強しませんか!?

～P2Mを学ぶSIGの活動紹介とP2M概説～



加藤 亨

PMAJ会員活動
P2Mガイドブック第4版を学ぶSIG

P2M標準ガイドブック改訂4版(以下P2Mと略す。)が2024年9月に10年ぶりに改訂された。P2Mは、企業がイノベーションを実現するためのガイドブックであり、より多くの企業人に理解を広げ、企業及び産業界での活動へ広めて行くことが重要と考えている。
P2M標準ガイドブック改訂4版を学ぶSIG(以下、P2Mを学ぶSIG)は、参加者がP2Mを学ぶ場として、2025年1月から活動を開始している。
主な活動として、①月1回の定例勉強会の実施、②活動成果のとりまとめ、③成果の発表などを予定している。
本講演では、P2Mを学ぶSIGでの議論を踏まえて、P2Mの概要紹介と学ぶ際のポイントについて解説する。

【講師略歴】

1978年 千代田化工建設(株)入社後、同社の様々な情報化プロジェクトを担当。同社グループ企業の執行役員、取締役、社長を歴任。2019年7月より日本プロジェクトマネジメント協会理事長に就任し現在に至る。
PMAJ公認PMS、米国PMI公認PMP、技術士(情報工學部門、総合技術監理部門)、情報処理技術者試験システムアナリストなど

[PM] プロジェクトマネジメント実践

A-02

品質保証プロセスへのAI活用の検証



林 成樹

エフサステクノロジーズ株式会社
サービスデリバリー本部 第一サービス事業部

富士通では品質確保の徹底を宣言しており、品質保証プロセスとして各PJ独自の強化施策を行っている。
そのような中、私が担当しているPJは、多段レビュー(※レビューアごとにレビュー観点を細分化し、複数回レビューを実施)を行い、レビューの記録をもとに品質分析を行って品質に問題ないことを確認してから次のレビューを行うプロセスを実践しており、非常にPMに負担がかかるものである。本講演では、このプロセスを実践するにあたって、品質分析にかかる時間が不足するという問題に直面し、その問題に対してAIを活用することで改善できないか検討・検証を行ったことを説明する。

【講師略歴】

2009年度 富士通アドバンストソリューションズ入社
～2013年度 信金・地銀系のインフラ開発PJを担当
～2021年度 保険系のお客様のインフラ開発PJ、アプリフレームワーク開発PJを担当
※2年間の顧客出向期間有
～2023年度 地銀系PJでLIB管・アプリ試験チームを担当
～現在 官公庁系PJのインフラ開発を担当

[PM] プロジェクトマネジメント実践

A-03

国際宇宙ステーション「きぼう」装置開発のPM

～様々なタイプの有人宇宙開発から学んだこと～



渡辺 英幸

宇宙航空研究開発機構 有人宇宙技術センター
主任研究開発員

国際宇宙ステーション「きぼう」のシステムおよび船外実験装置の開発を、初期から担当し、開発仕様調整、企業間のインタフェース調整、NASAとのインタフェース調整、スケジューリング、リスク、コストなどのマネジメントを、試行錯誤しながら実施し、ミッションを成功に導いた。これらの経験をもとに、上記の異なる開発方式(1)「きぼう」システム開発、(2)利用者のニーズを発掘しながら進める実験装置開発、(3)地上ドローン技術をそのまま宇宙で用いた研究要素の強い飛行ロボット開発、において必要とされるプロジェクトマネジメントの違いについて得られた知見、教訓などを紹介する。

【講師略歴】

1995年、JAXA(当時NASDA:宇宙開発事業団)入社、国際宇宙ステーション「きぼう」開発プロジェクトの装置開発・運用を開発初期から担当。2018年「きぼう」ロボットアームを活用した簡易曝露実験装置を開発、宇宙での材料などの曝露実験の敷居を下げたことを評価され、日本機械学会、宇宙工學部門スペースフロンティアを受賞。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

A-04

今、リーダーに求められる覚悟とは

～最高のリーダー自身に求められる感性と行動力～



阿比留 眞二

株式会社ビズソル
代表取締役

現代は世界中がネットで繋がり情報過多の社会に翻弄される極端な分断と混沌の社会である。われわれも例外なくその波に飲み込まれている。今までこれほどまでにアメリカの大統領の言動に振り回されたことはなかったのではないかと。その上で、われわれは冷静に物事や出来事の成否を見極め考える必要性が増している。企業も例外なくその渦中におり、どのような対応をすべきか苦慮している。そしてその成員であるPMリーダーたちもその対応に追われているに違いない。そこで今回、PMリーダーの皆さんに今後の課題解決の一助として『今、リーダーに求められる覚悟とは』と題して、参考になるお話をさせて頂く。

【講師略歴】

1954年東京中野生まれ。明治大学商學部卒業。26年間花王の管理、販売企画、社員教育部門など歴任し、独自の課題解決ビジネスメソッドを作り上げる。2005年「課題解決コンサルタント」として独立。企業経営者から幹部候補生と新入社員まで10年間で約5000人指導。独自の課題解決研修は「分かりやすい」と好評を得ている。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

A-05

部分最適から全体最適の経営へ

～中長期に企業価値を向上させ続ける実践ROICマネジメント～



日戸 興史

日本CFO協会理事
社外取締役3社(元オムロン取締役 CFO 兼 グローバル戦略本部長)

企業は、現在では今まで以上にステークホルダーから中長期的での継続的な企業価値向上の実現が強く求められています。そのために、多くの企業が収益力向上のためROIC経営を実践し、成果に結び付けようとしています。
ROIC経営は、経営陣だけの課題ではありません。多くの関係者が共通の目的/目標を達成するに向けて、利害を超えて協力して重大な課題を解決していく全体最適でのプロジェクトと言えます。
この講演では、全社的部門横断で全体最適にて取り組み、多くの関係者が参画する重要なプロジェクトを遂行し、業績向上に結び付けた事例を、知見と共に知る事ができます。

【講師略歴】

元オムロン取締役 CFO 兼 グローバル戦略本部長。1983年立石電機(現オムロン)にエンジニアとして入社し、技術開発、商品開発、新規事業開発に従事。2002年以降は、事業構造改革、本社機能改革をリードし、2017年グループCFOとしてROIC経営をリード。現在は、日本CFO協会理事や、プライム上場企業3社の社外取締役

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

A-06

赤字撲滅! 3年間赤字プロジェクトゼロまでの道のり

～苦節10年・解明した6つのポイント～



高橋 明子

株式会社システムインテグレータ
エンタープライズ開発本部 開発3部 ディレクター

当社は2000年代から「赤字プロジェクト撲滅」に取り組み、試行錯誤を重ね、3年連続で赤字プロジェクトゼロを達成した。その背景には、Check(分析)→Act(改善)→Plan(計画)→Do(実行)を回すCAP-Doサイクルの継続と、PMOを活用したリスク管理・組織連携の強化がある。本講演では、赤字プロジェクトと成功プロジェクトの両面からアプローチし、課題の早期発見・適切な計画・工程レビューの重要性、PMO視点での分析・組織対応、標準化による上流工程の改善など、6つの具体的な取り組みを事例とともに解説し、プロジェクトの健全な運営と収益性向上に向けたヒントを共有する。

【講師略歴】

2006年同社入社。大規模受託開発のPLを歴任後2013年にERP事業部の品質管理担当兼PMOに異動、以降10年にわたり事業部の品質管理、PMOの制度を築き上げた。現在はPMOで培ったノウハウを活かし、プロジェクト管理研修講師を担当。事例を交えプロジェクト管理の重要性を基礎からわかりやすく発信している。PMP、PMS。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

A-07 プロジェクトマネジメントの神話と幻想 ～膨大なデータと、科学的分析が示す進化への道程～



株式会社トヨタシステムズ

河路 裕司  

最新の米 CHAOS Reportは、膨大なデータと科学的分析により、今まで良いと思われてきた以下の事柄が「既に幻想でしかない」と明確に否定した。

1. 成功するプロジェクトには高度なスキルを持つプロジェクトマネージャが必要
2. プロジェクトマネジメントツールの効果的な利用はプロジェクトの成功に役立つ
3. プロジェクトの成功には明確なビジネス目標が必要
4. 不完全な要件がプロジェクト失敗の原因になる

なぜこの考えが間違っていたのか？そして我々プロジェクトマネージャはどうすべきなのか？

納得できる説明を解像度を上げて行う。そして何より日本の現場で今後どう行っていくかの道筋を示す。

【講師略歴】

1990年よりメガバンクのシステム開発に従事。2003年よりトヨタシステムズにてウォーターフォール型の大規模プロジェクトのPMを歴任。2016年からPMOとして組織内のプロジェクトを横断的に指導すると共に、スクラムマスターも兼務。現在はアジャイルコーチ、トレーナー、ITエンジニアの人材育成の企画・推進にも携わっている。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

A-08 DX時代のリスキリング ～組織変革に必須なPMとアジャイルのスキル向上～



PMAJ会員活動
組織アジリティSIG

小原 由紀夫 

DX時代のリスキリングは仕事の仕方や考え方を変革するため、従来と異なる新たな仕組みが必要となる。組織アジリティSIGでは、組織で実践されているリスキリング事例を研究した。①トップが自ら学び、実際に困っている題材での実践を見届ける仕組み、②反転学習により現場が自律していく姿を通じて全社展開する仕組み、③アジャイル適用に関する課題へのPMスキル活用の仕組みを確認した。これらの事例から、PMとアジャイルスキルを共通基盤として変化の激しい環境における組織変革を推進するアプローチを提示し、日本企業がDXを推進して組織アジリティを向上させていくことに貢献する。

【講師略歴】

小原由紀夫(個人コンサルタント)：グローバル500社の組織変革に貢献したケイデンスマネジメント社認定講師。2022年まで富士通株式会社にてDXに必須なアジャイルを社長～統括部長600名にリスキリングし、ビジネス創成・組織変革の共通認識を確立。PMAJ編「アジャイル開発への道案内」他を共著。PMP、SPC。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

A-09 『秘密のエピソード』で学ぶ PMBOK® 第7版12の原理・原則 ～超多忙な4名のメンバの成果紹介～



PMAJ会員活動 PM/ノウハウ継承研究会SIG
(略称：「ものごた」研究会)

藤曲 亜樹子/西岡 浩是/新谷 幸弘/奥田 智洋/中谷 一樹/吉野 均 

前年大好評だった『秘密のエピソード』の新たな成果を4つ紹介する。一つ目は、前年の特別講演者クレディセゾン小野取締役が、スチュワードシップで既存社員と新参者の対立を協創に変えた秘訣を伝える。二つ目は、顧客の複雑な意思決定プロセスに翻弄され、疲弊したチームを再生させた建築リーダーの秘訣を伝える。三つ目は、某グローバル企業の研究開発リーダーが、国民性文化性の違いで対立を繰り返すチームを、一致団結したチームへと変えた秘訣を伝える。四つ目は、現行システムのノウハウが全くなかったベンダが現行踏襲プロジェクトをリプレイスし、大トラブルを引き起こした失敗の真因を伝える。

【講師略歴】

藤曲 亜樹子：BIPROGY株式会社 グループ内部監査部長
西岡 浩是：竹中工務店 国際支店設計部シニアチーフアーキテクト
新谷 幸弘：千葉工業大学教授(技術経営・イノベーション研究室主宰)
奥田 智洋：株式会社アイ・ティ・イノベーション
中谷 一樹：TIS株式会社 品質革新本部 品質マネジメント革新部
吉野 均：物語リラボ代表

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

A-10 PMBOK® ガイド第7版概要解説及び 今後の方向性について ～PMBOK® ガイドはどこに行くのか～



PMAJ会員活動
PM研究・研修部会

大槻 直彦 

PMBOK® ガイドは、プロジェクトマネジメントの知識体系・フレームワークとして事実上のグローバルスタンダードとなっている。2021年7月には第7版が原則ベースで発行され、翌年にはプロセスベースのPM実践のための補足情報として「プロセスグループ実務ガイド」が発行された。よって原則と実務の両輪を学習する必要があった。本年度にはPMBOK® ガイド 第8版の出版が計画されていて、その動向が注目されている。本講演ではPMBOK® ガイド 第7版の特徴を、従来より根本的に変わった構造を中心に概説し、さらには第8版の方向性についても現状明らかになっている範囲でなるべく判りやすく解説する。

【講師略歴】

PMAJ PM研究・研修部会・講師。PMI® 認定PMP® PMAJ 認定PMS 石川島播磨重工業(現株式会社IHI)入社以来、海外プロジェクトの設計、PJ業務に携わる。PJコストコントロールでは海外パートナーとのJV構築に尽力、その傍らIHIグループ内でのPM教育講座講師をつとめる。現在は(株)IHIプラントにてPJ業績管理に携わる。

[BS] 戦略及びビジネスマネジメント

A-11 第4次産業革命 エグゼクティブ ビジネス スクールとプロジェクトマネジメント人材 育成



北九州工業高等専門学校
生産デザイン工学科 知能ロボットシステムコース 教授

久池井 茂 

第4次産業革命の進展により、ロボット・AI・IoT・ビッグデータなどのデジタル技術を活用し、変革を推進できる人材を求めている。本講演では、北九州工業高等専門学校が実施する「第4次産業革命 エグゼクティブ ビジネススクール」における人材育成の取り組みを紹介する。実践的なプロジェクトマネジメント教育、最新技術を取り入れたカリキュラム、企業との連携事例を交え、次世代のリーダーに求められるスキルを考察する。特に、変革期におけるプロジェクトマネジメントの役割や、企業競争力強化・成長戦略への貢献について、実践的な学びの重要性を探る。

【講師略歴】

北九州工業高等専門学校卒業。九州工業大学大学院博士後期課程単位取得退学、博士(工学)。主に、ロボット・AI・IoT・ビッグデータを活用した生産システムの研究開発に従事。国立高等専門学校機構研究推進・産学連携本部員。社会人リカレント教育である「第4次産業革命 エグゼクティブ ビジネススクール」などを主宰。

[BS] 戦略及びビジネスマネジメント

A-12 複雑化する社会課題プロジェクトに 求められるマネジメントの実践例 ～ビジネスアジリティと人材育成が プロジェクトを成功に導く～



Ridgeline株式会社(リッジライン株式会社)
テクノロジーグループシニアマネージャー

大久保 知洋

Ridgeline株式会社(リッジライン株式会社)
テクノロジーグループマネージャー

竹内 健 

近年、社会の課題はますます複雑になり、従来のプロジェクトマネジメント手法からのアップデートは必要不可欠となる。また、プロジェクトに参画する人材を組織内で育成、活用することで、プロジェクト成功につながった事例が多数存在する。本講演では、変化の激しいビジネス環境において、プロジェクト成果を出すための要点とアプローチ方法を、下記「ビジネスアジリティ」と「人材育成」の両面から紹介する。

- ・ウォーターフォールとアジャイル手法の進め方を比較しながら、今なぜ「素早く適用する力(ビジネスアジリティ)」が重要なのか
- ・現場にフィットする人材を育成・活用するには、スキルドリブンの専門人材育成やAIを活用したコーチングやアサインも効果的

【講師略歴】

大久保 知洋：先端テクノロジーを活用したHRTechや全体アーキテクチャ構想、業務プロセス改革を専門としたDXコンサルを提供
竹内 健：アジャイル導入の専門家であり、CSP-CSMを保有。大手SIer、コンサル、食品製造業を経て現職。コーチング、コンサルティング、アジャイル、データ活用を掛け合わせたコンサルを提供

【BS】戦略及びビジネスマネジメント

A-13

AIで実現する業務変革
～AGENT for AI agents～富士通株式会社 AI戦略ビジネス開発本部
VP, エグゼクティブディレクター土井 悠哉 **B**

日本エンタープライズ市場向け業務システム構築実績No.1の富士通のAI戦略と実践。「PoC止まりで本導入に至らない」「世間が騒ぐほどの効果がでない」などのお悩みを抱えるお客様が多い中、AIやAI agentを用いて実際に数億、数十億の価値を生み出した実際のプロジェクト例を動くアプリケーションでご紹介する。

【講師略歴】

2006年に富士通株式会社入社。SMB市場のERPソリューションの立上げ、GIS(Google Maps)ソリューションの立上げ、Dataビジネス(Palantir)の立上げに従事。2023年よりAI事業に従事。2025年より現職。NEDO Supplychain Challenge等ハッカソンでの生涯獲得金額2,500万円を超える。愛読書はゴルゴ13。

【HR】人材育成・働き方改革

A-14

自ら考え行動する「指示ゼロ経営」の実装法
～リーダーを1人で抱え込む苦悩から解放する～株式会社Tao and Knowledge
代表取締役米澤 晋也 **P**

部下自らが課題を見つけ、仲間と知恵を出し合い協働する「プロジェクト・セルフ・マネジメント」のヒントをお届けする。
「いつも部下が指示を仰いでくる」「会社の業績に無関心」「自分の仕事以外に関心がなく助け合わない」などの課題を解決し、自律的組織に変容するための方法論を提案する。「現場が自律的に判断し行動する必要性を感じている」「賃金や出世以外の動機づけが必要だと感じている」「リーダー、マネジャー本来の仕事がしたい」…そんな方にお勧めする。メンバーが、リーダーと同じように組織を愛し、悩み、心から仕事を愉しむようになるでしょう。

【講師略歴】

衰退業種である新聞店を20年間以上にわたり経営する中で、指示・命令がなくとも自分たちで課題を発見し行動する組織論「指示ゼロ経営」を開発する。これまでに企業や教育機関などで、延べ1万人以上が学び実践している。著書に「指示ゼロ経営」「賃金が上がる！指示ゼロ経営」(いずれも内外出版社)がある。

【HR】人材育成・働き方改革

A-15

働き方のパラダイムシフト
～意図を持って働くとは～プロノシア・グループ株式会社 代表取締役 / 株式会社TimeLeap
取締役 / 株式会社GA Technologies 社外取締役Piotr Feliks Grzywacz **P**

パンデミックが追い風となり、社会がパラダイムシフトを遂げた今、個人の働き方はこれまで以上に多様化しています。働く場所、仕事のやり方、順序、コミュニケーション手段など、自らの判断で選択することが求められています。このような時代に必要不可欠なことは「意図」を持って働くこと＝インテンショナルワーキングです。仕事で成果を出すため、個人に最適な働き方をプログラムする際に、経営者や人事、マネジャーはどのような支援をするべきでしょうか。そして、人間の意思決定すらアルゴリズム化された最新テクノロジーをいかに活用していけば良いのでしょうか。

【講師略歴】

連続起業家、投資家、経営コンサルタント、執筆者。モルガン・スタンレーを経て、Googleで人材開発、組織改革、リーダーシップマネジメントに従事。2015年に独立し、未来創造企業のプロノシア・グループを設立。ベストセラー『NEW ELITE』、『世界最高のコーチ』など執筆。最新著書は「心理的安全性 最強の教科書」「世界の一流は「雑談」でなにを話しているのか」。ポーランド出身。

【HR】人材育成・働き方改革

A-16

PM道高段者を極める
～プロジェクト・マネージャのコンピテンシー研鑽～株式会社日立アカデミー 研修開発本部
プロジェクトマネジメント統括マネジャー坂上 慶子 **C&P P**

PMコンピテンシー研鑽を、日本文化の「道」(柔道、茶道、剣道、合気道など)における価値観と対比し、「プロジェクトマネジメント道」と、当社は名付けた。日本における「道」とは、伝統的な技の上達のために修行を積み、というプロセスであるが、その修練を通して、人として成長し、人格者になることが多くの「道」における目的でもある。では、「PM道高段者」とはどうか。AIの台頭により、AIが機械的な作業を処理することによって、人間が、より創造的または戦略的な仕事に集中できる環境が生まれている。AIと共存し、人間でなくてはできない感情や創造性をもつ活動ができる「PM道高段者」について、解説する。

【講師略歴】

計測制御メーカー系 SI企業にて約20年間システム開発に従事。多様なシステム開発経験を生かして、技術系インストラクタに転向。2007年、株式会社日立インフォメーションアカデミー(現 日立アカデミー)入社。プロジェクト・マネジャー育成分野を担当。年間のべ受講者数25,000人規模をマネジメント。PMAJ理事。PMI日本支部理事。プロジェクトマネジメント学会委員。PMP、PMAJ公認PMS、日本ポジティブ心理学協会認定プラクティショナー。

【HS】ヒューマンスキル

A-17

ワクワクする日本の未来をデザインする
～PMに求められる「大義」と「Will」～PMマイスター
大阪大学フォーサイト株式会社 エバンジェリスト竹林 一 **B**

世の中が劇的に変化し、従来の社会構造やビジネスモデル自体の賞味期限も切れはじめてきました。更なる効率化や経費削減の延長線上には、もはやワクワクする未来はありません。世の中ではイノベーションやトランスフォーメーションが急務だと叫ばれ続けていますが、言葉の浸透度とは裏腹に、何をどうしたらいいのか分からないと言う方が多いのではないのでしょうか。いまこそ従来の思考から脱却し、いかに新しい未来をデザインしていくのか、また生成AIに代表される変革をいかにとらえていくのか、ワクワクする未来をデザインするPMが担うべき役割はなんなのか実践事例を交えながら共に考えていきます。

【講師略歴】

オムロン(株)にて大型プロジェクトのPM、オムロンソフトウェア代表取締役社長、ドコモ・ヘルスケア代表取締役社長、イノベーション推進本部シニアアドバイザーを務めると共に京都大学経営管理大学院客員教授。現在大阪大学フォーサイト株式会社エバンジェリスト、麗澤大学特任教授、上場企業社外取締役等を務める。

【SH】その他人文科学分野

A-18

脳を休めるマインドフルネス
～デジタル時代のストレス対処法～一般社団法人マインドフルネス瞑想協会
代表理事吉田 昌生 **W**

デジタル時代のストレスを軽減するマインドフルネスを体験しませんか?この講演では、ストレスの生理学的メカニズムを明らかにし、心を穏やかにするマインドフルネスの方法と手軽な瞑想技術を紹介しします。脳科学的根拠に基づくこれらのテクニックを通じて、仕事もプライベートも充実させる方法を学び、毎日をより良くする自己管理のスキルを習得します。マインドフルネス未経験者でも、頭と体でマインドフルネスを実感できる内容です。日常生活に役立つマインドフルネスの基本を学び、新たな一歩を踏み出しましょう。

【講師略歴】

一般社団法人マインドフルネス瞑想協会代表理事、株式会社MELONチーフマインドフルネスオフィサー。2009年からマインドフルネスを指導、その普及に尽力。12冊の著書を出版し累計15万部超え。国内最大級のマインドフルネスアプリやウェルネス施設のプロデュースを多数監修。Youtubeで瞑想音源を配信チャンネル登録者4.5万人

[HS] ヒューマンスkill

A-19

Are you a Friction Generator or a Friction Fixer?

～摩擦を生む人、解決する人～ ★英語講演★



Orange S.A. (旧フランス・テレコムS.A.)

Senior Project Manager, PMP, PMI-ACP, PMI-PBA

Yasmina Khelifi

(本講演は、2024年9月にロサンゼルスで開催されたPMI Global Summitのプレゼンテーションの再演です ★英語講演★)

グローバルなリモート・チームは、多様で、競争が激しい。優れたリーダーはチームメンバーの生活を楽にし、プロジェクトを成功に導く重要な役割を果たす。あなたはどんなリーダーですか？チームをサポートしますか、それとも苛立たせますか？プロジェクトチームに摩擦を生む行動を特定し、それを変えるための戦略とはなにか。摩擦を減らす行動を特定し、それを強化するための戦略とはなにか。リーダーシップの鏡に向き合う。

【講師略歴】

フランス在住。20年の経験を持つテレコムエンジニア兼プロジェクトマネージャー。モバイルテレコミュニケーション理学修士。6か国語に堪能。著書「The Volunteering Journey to Project Leadership」(CRC Press, 2024, 共著)。Harvard Business Reviewでリーダーシップについての執筆者、PMIのProjectManagement.comやPMWorld Journalなどに定期的に寄稿している。

P2M資格体系

略称	資格名称	到達能力水準
PMR	プログラママネジャー・レジスタード (Program Manager Registered)	プログラママネジャーとしてプログラムミッションを達成するための十分な実践力としての実務遂行能力、判断力、対人折衝能力などのコンピテンスおよび経験を有すること (プログラマ・プロジェクトマネジャーに必要なP2M実践力を保有)
PMS	プロジェクトマネジメント・スペシャリスト (Project Management Specialist)	プロジェクトを実際に遂行するプロフェッショナルとしての知識全般を有すること (プログラママネジメントを含むP2M全般知識を修得)
PMC	プロジェクトマネジメント・コーディネータ (Project Management Coordinator)	プロジェクトの各マネジャーの下でプロジェクトの一員として実務遂行できる基礎知識能力を有する (P2Mにおけるプロジェクトマネジメントのコア知識を修得)
PMCe	プロジェクトマネジメント・コーディネータ・エントリー (Project Management Coordinator - Entry)	※PMCの受験資格 PMAJ発行の「プロジェクトの概念」を学習し、単位を修得 (但し学生に限る)

詳しくはホームページをご覧ください。

PMAJの会員活動のご紹介

PMAJの活動を支える組織として**部会**が、専門的な分野で研究し展開する組織として**SIG**があります。
PMAJ会員には各種特典がありますので、是非ご入会下さい。

例会部会

月例会を通して、有益かつ時宜を得たPMビジョン・戦略、手法、実践事例などの話題提供ならびに会員交流の機会を提供しています。

PMシンポジウム部会

PMシンポジウムを開催し、国内外のPMビジョン・戦略、実践事例などの発表と知識講習・スキル向上講習の機会を提供しています。

PM研究・研修部会

Project Management Institute (PMI)®を中心として、海外発のPM体系・手法を基本としたPM研修事業を実施しています。

交流会 (P2Mクラブ)

PMを志す仲間相互の情報交換と自己啓発の場です。関心の高いテーマについて話題提供頂き、それを起点に活発な質疑で理解を深めます。

APC (Advanced PMR Club)

PMRの認知向上活動およびPMRによる価値創造活動を通じて相互啓発し、プログラママネジメントの普及・促進を図ります。

P2M普及・推進部会

PMAJの活動の理論的基盤である「P2M体系」の一般社会への普及・促進のための活動を行います。

地域PM研究部会

各地域に研究部会を組織し、それぞれ会員活動を展開しています。



SIG (Specific Interest Group)

Wtech. SIG

次世代のインターネットと言われるWeb3.0を研究し、その事例などを紹介します。また、それを活用したプロジェクトの試用など試みています。

組織アジリティ SIG

「アジャイル開発」とプロジェクトマネジメントの蓄積されたノウハウを活用し、組織アジリティを向上させることを通じて、GDP底上げに貢献することを目指しています。

ロードマッピング SIG

日本企業において「ロードマッピング」の更なる実践と発展を促進する一助とすること、また戦略プログラム→プロジェクトを繋ぐ新たなアプローチをP2Mへ提案すること目的としています。

グローバルPM SIG

グローバルPM活動を組織的に継続する体制を確立し、グローバルPMコミュニティに貢献できる人材を育成するための組織的な活動を展開しています。

チェンジマネジメント SIG

業界・業務を問わず変革プログラムを成功させるための方法論を整備し、P2Mのプログラママネジメントの価値を高め、企業の推進するプログラムの成功確率を向上させることを目的としています。

新規事業プログラママネジメント SIG

新規事業という不確実性や難易度も高く、継続性が難しい活動を「プログラマ」として捉え、日本企業における新規事業の成功について考察し、新規事業におけるマネジメントを体系化しています。

PMDX-AWP SIG

現在、プロジェクト遂行方法の国際的な変革が起きている。日本の業界としても迅速に知識を共有し、関係企業が団結することにより、この大きな流れを日本に加速させています。

PMノウハウ継承研究会

各組織に残された未だ知られていない『ものがたり』を互いに持ち寄り、磨き上げ、様々な分野に適用可能な卓越したPMの知識・力として新たな『ものがたり』に再整理していきます。

博士人材と指導教員の醸成 SIG

博士を目指したい方が安心して学修できる環境を整え、高い専門性と汎用的能力を有する人材として活躍することを後押しします。

P2M標準ガイドブック改訂4版を学ぶ SIG

P2Mの内容の理解し、業務に適用する際のポイントなどを学び、多くの企業人に周知していくことを目的としています。

AIエージェント活用PM SIG

AIエージェントを含む先進的なAI技術を活用したプロジェクトマネジメントに効果的に組み込むため、専門的に研究・情報発信・人材育成を行うことを目的としています。

特別講演 SP-21 プロダクトの価値を最大化する思考法

～変化する市場で求められる視点とは～

10:45～11:45

Tably株式会社 代表取締役 Technology Enabler

及川 卓也 B

市場の変化が激しく、顧客のニーズも常に移り変わる中で、事前にすべてを想定し、計画通りに進めることはますます難しくなっている。市場適応に失敗すれば、価値が伝わらないまま競争力を失うリスクもある。プロダクトが持続的に価値を生み出すためには、変化に適応し、成長し続ける視点が欠かせない。では、市場の変化に適応し、プロダクトの価値を最大化するにはどうすればよいのか。本講演では、プロダクトマネジメントの視点から、価値を生み続けるプロダクトとは

何かを探る。どのように価値を創出し、事業成長と顧客満足の両立を目指すのか。市場の変化を捉えながらプロダクトを進化させる方法を解説する。さらに、組織全体でプロダクトの価値を最大化するための仕組みや文化の醸成についても考察する。プロジェクトマネージャーにとっても有益な視点として、新たな示唆を提供できれば幸いである。

【講師略歴】

外資系IT企業3社にて、ソフトウェアエンジニア、プロダクトマネージャー、エンジニアリングマネージャーとして勤務する。2019年1月、テクノロジーにより企業や社会の変革を支援するTably株式会社を設立。著書『ソフトウェア・ファースト～あらゆるビジネスを一変させる最強戦略～』（日経BP）、『プロダクトマネジメントのすべて』（翔泳社）

特別講演 SP-22 DXを推進するためには

～組織の中で成功といわれるプロジェクトを率いるプロジェクトマネージャーの役割～

12:45～13:45

デジタル庁 シニアエキスパート

住田 智子 P

DXに関わるプロジェクトを真に成功させようとする、アナログでやっていたことを単純にデジタル化するだけではなく、さまざまな工夫をして、ユーザーから見て一連の流れでデジタル完結ができることを目指すことが重要です。DXを進められるプロジェクトマネージャーは組織の中ではDXを進められる一部の人の中でもリーダー的な存在で、その組織の中でプロジェクトを成功させるためにプロジェクトマネー

ジャーがしなければいけないことは単にプロジェクト内部の中だけではなく、多岐にわたると感じています。

【講師略歴】

兵庫県出身、2001年 新卒でITコンサルティングを主業とするフューチャーシステムコンサルティング(現フューチャー株式会社)に入社、流通・小売を中心とした複数のプロジェクトに従事、2011年 外務省、2013年 内閣官房への出向後、フューチャーのグループ会社の経営等も経験し、2021年より現職

特別講演 SP-23 プロジェクト・マネジメントから見た「設計論」の課題

～モダンPMにおけるミッシング・ピースを考える～

14:00～15:00

日揮ホールディングス株式会社 チーフエンジニア (ビジネス・アナリスト)

佐藤 知一 W

プロジェクトの成功には、きちんとした計画立案が欠かせない。プロジェクト計画の基礎はWBSである。そしてプロジェクトの生み出す成果物と、WBSの構造とは密接な関係にある。しかし不思議なことに、現在のモダンPM標準には、良い設計とは何か、設計とプロジェクト計画はどのように関わるかについての整理がない。つまり設計論が存在しないのである。本講演では、設計とはどういう行為かについての再考から始めて、設計に伴うトレ

ードの存在、成果物ベースのP-WBSと機能ベースのF-WBS、組織構造とWBSとの関係などについて考察する。さらに設計の品質について触れた後、WBSの構造がいかにプロジェクト・マネジメントの有効性を規定するか、実例を元にふりかえりたい。設計技術者の総合的集団であるエンジニアリング企業での経験を元に、これらのモダンPMが取り組むべき設計論の枠組みを議論できれば幸いである。

【講師略歴】

1982年、日揮(株)に入社。国内外の製造業向けに、工場作りと生産システム構築プロジェクトに従事。現在、日揮ホールディングス(株)チーフ・エンジニア(Business Analyst)／筑波大学教授(グローバル教育院)、博士(工学)；中小企業診断士。著書：『世界を動かすプロジェクトマネジメントの教科書』(技術評論社)ほか

特別講演 SP-24 日本起源のリーンとアジャイルで経営を変革する

～戦略と実行を繋ぐポートフォリオマネジメント～

15:15～16:15

Scaled Agile-Japan合同会社 代表執行役 古場 達朗

Scaled Agile-Japan合同会社 ストラテジックアドバイザー 中谷 浩晃 P

労働人口が減少していくことが明らかな今の日本の状況の中、市場の変化のスピードは益々早くなっている。高い効率性や生産性が求められる現代において、変化に対応し無駄なくお客様に価値を届けることは、非常に難易度が高く、解決すべき課題になりつつある。グローバルの競争にさらされている今、市場変化に対応するための迅速な意思決定を行い、競争を勝ち抜くために戦略のアジリティを持たせ、それを実行することが求

められている。本講演では、組織変革を推進するために世界で2万を超える組織で「ビジネスのOS」として活用されるScaled Agile Framework® (SAFe®:セーフ)において、経営を変革するためにリーダーがどのようなマインドで振る舞い、戦略と実行をいかにして繋げ、ビジネス成果を最大化していくことができるのか、対話型のセッションを通じて共有する。

【講師略歴】

古場達朗：外資系IT企業にてSAFeに出会い日本市場での適用可能性を見出す。2019年に Scaled Agile 日本法人を設立。パートナー企業を開拓し、顧客企業へのSAFe導入を推進。日本企業のビジネスアジリティ獲得実現を目指す。／中谷浩晃：日立製作所中央研究所でキャリアを始め、外資企業で組織変革を成功させた後、現職にて企業経営層への変革推進の助言やコンサルティングに従事。2024年に世界で44人目、日本人初のSAFeフェローに選定。

特別講演 SP-25 iPS細胞を活用した個別化がん免疫治療

～アカデミアにおける医療開発とそのマネジメント～

16:30～17:30

京都大学iPS細胞研究所 増殖分化機構研究部門 免疫再生治療分野 教授

金子 新 W

2006年にマウス、2007年にヒトでの樹立が報告されたiPS細胞は、無限とも言える自己複製能と、個体を形成するあらゆる細胞に分化できる分化多能性をもち、in vitroで維持できる細胞として、再生医学研究に広く活用されている。我々は、再生医療研究や創薬研究に供することを目的とし、iPS細胞を用いた抗原特異的T細胞の再生を報告したのを皮切りに、iPS細胞由来のキラーT細胞、ナチュラルキラー(NK)

細胞を含む自然リンパ球、CD4制御性T細胞などの分化誘導法の確立や、それらの細胞を遺伝子改変して得られるキメラ抗原受容体(CAR)-T細胞、CAR-NK細胞などを用いた新しい治療法の開発を続けている。本講演では、iPS細胞研究所から供給される再生医療用iPS細胞を用いたこれまでの我々の研究成果について紹介するとともに、TOCを活用した個別化免疫再生治療の開発と展望についても紹介したい。

【講師略歴】

1995年筑波大学医学専門学群卒業、2002年同大学院医学研究科修了・博士(医学)取得。日本学術振興会特別研究員を経て、2003年より筑波大学血液病態制御医学講師。2005年よりサンラファエレ研究所(ミラノ)研究員。2008年より東京大学医科学研究所助教。2012年より京都大学iPS細胞研究所准教授、2020年より現職。

[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践

B-01

データドリブンによる PMスタイルの変革



富士通株式会社 グローバル品質マネジメント本部
本部長

藤森 正晴 W

従来の勘と経験によるマネジメントからデータドリブンによるPMスタイルに変革が進んできている。そのためにはデータを収集・統合化して、生成AIやダッシュボードによる見える化ができる基盤・仕組みが必要である。ただし現場の自主性に委ねるだけでは、従来のやり方に固執するPMもあり変革が進まない。そのため、より効果的に実行ベースに移すトップダウンの仕掛けも同時に構築しなければならない。それらの両輪を組み合わせることで、変革の実現と、期待効果とする失敗プロジェクトの抑制に寄与することができる。

[講師略歴]

富士通株式会社に入社後、金融・流通・メディアの各業種担当のSEを経験。2017年より全社の品質マネジメントを行うグローバル品質マネジメント本部に異動し、品質向上に向けたプロセス・仕組みの構築・エンハンスと失敗プロジェクトの抑制に向けた第三者監査を実施。

[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践

B-02

開発技術者は機械じゃない ～人間の行動特性を理解したマネジメントが プロジェクトを救う～



ゴールシステムコンサルティング株式会社
執行役員副社長

渡辺 薫 P

製品開発、設計、情報システム開発等の中心は技術者である。またやってみないと分からないことがある。この環境で技術者を「与えられたタスクを計画通りに完了できる」機械のようなものと想定してPMを行うと、後から必ず重大なリスクが顕在化する。人間は機械と違って、どんな能力があるかをあらかじめ確実に知ることにはできない。人間は「できることから始める」「飛び込み仕事を断らない」などの柔軟な行動をとる。そのため直近の進捗は順調に見えるが、手戻りや品質問題の重大なリスクを内包することになる。これらの人間の特性を理解した計画立案と実行管理の実践方法をTOC-CCPMをベースに解説する。

[講師略歴]

京セラ、ニデック、DXCテクノロジー、日立製作所等を経て現職。講演者のチームは複数の大手工場企業の新製品開発PM支援で大幅な納期遵守率向上を実現している。TOC(制約理論)の実践者として豊富な実績を有し、国内外のTOC関連カンファレンスでの発表多数。日本人で唯一TOC-ICO(TOC普及促進の国際団体)理事を経験。

[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践

B-03

プログラムマネジメントの実践事例と その紹介活動

～PM普及推進活動におけるPMR資格者の役割～



PMAJ会員活動
APC (Advanced PMR Club)

枝達 肇 B

プログラムマネジメントは皆さんの身近なところで応用できます。PMR資格取得者有志がまとめている実践事例集では、プログラムマネジメントをどのように考え、実践してきたかを、わかりやすく紹介しているので、皆さんがプログラムマネジメントを活用する際のヒントとしていただけることでしょ。実践事例集はこれまで「エッセンス版」のみでしたが、今年「詳細版」を新たに発行するに至りました。時代の要請もあり、今やプログラムマネジメントは必要不可欠なものになっています。この講演では、プログラムマネジメントの活用方法を、実践事例集の中身を使いながらわかりやすく説明させていただきますので、是非参考にしてください。

[講師略歴]

1989年電機メーカーに入社。プラント制御システム構築を担う部署にてプロジェクトマネジメントに従事する。その後、生産技術部での社内向け部門システムの構築を行う業務を経て、2015年からは品質保証部門にて事業部での品質向上に向けた活動に従事している。現在PMAJで、副理事長、例会部会長と、このAPCの代表幹事を拝命している。

[PM] プロジェクトマネジメント実践

B-04

インドネシア銅製錬プロジェクトの紹介 ～数々の困難を乗り越え短納期で完工達成～



千代田化工建設株式会社 MSPチーム
プロジェクトマネージャー

土田 真 W

2015年からスタディ業務を開始し、その後プロセス・処理能力・場所の変更要求にええながら、2021年にEPCを受注した。千代田にとって初めての銅メジャー顧客、久しぶりの銅製錬プロジェクト、膨大なワークボリュームに対して短納期、複数拠点での設計・調達遂行、複数工事サブコントラクターの起用、インドネシア労働者の効率や安全の管理といった遂行上の困難に加え、コロナ禍やウクライナ情勢およびイスラエル・パレスチナ問題の影響、注目度の高い国家戦略プロジェクト、地域貢献といった外的要因にも対処しながら、2024年11月に完工を達成した。本講演では、これまでの苦労や対応を紹介する。

[講師略歴]

1997年入社以来プロジェクト畑。1998年インドネシア銅製錬で機器担当、2002年サハリンLNGで仮設担当、2005年カタールLNGのプロジェクトエンジニア、その後海外石化案件見積を経験。2015年PTFI社向けインドネシア銅製錬プロジェクトのPM代行としてFEED、2023年よりPMとしてEPCを遂行。2025年4月より非鉄金属・資源事業部部長。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

B-05

翻訳・ローカリゼーションプロジェクト における生成AI活用術



立教大学 異文化コミュニケーション学部・研究科
教授

山田 優 W

グローバル化の加速により、多言語翻訳・ローカリゼーションの需要が増加している。しかし、多言語化プロジェクトは、その進行の外において、言語的・文化的背景の違いによる意思疎通の困難さ、誤解の発生など多くの課題を抱える。本講演では、特に翻訳・ローカリゼーションを中心とするプロジェクトマネジメントの現状と課題を整理したうえで、生成AIを活用した多言語コミュニケーションの効率化・品質向上の可能性について議論する。実際の活用事例を交えながら、AI導入時の具体的な成功要因と注意点、さらには人間とAIの適切な役割分担や協働モデルの展望を提示する。

[講師略歴]

立教大学異文化コミュニケーション学部／研究科教授。IT系ローカリゼーションのプロジェクトマネージャ等を経て、産業翻訳者・コンサルとして独立後、大学教員に転身。最近の研究の関心は、AIを活用した多言語コミュニケーションと翻訳の社会実装。著書に『ChatGPT 英語学習術』(アルク)単著などがある。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

B-06

基幹システム開発における ハイブリッド開発の適用術 ～徹底的にこだわったユーザ中心設計～



株式会社講談社 IT戦略企画室
システム部 副部長

小山 佳祐 CFP W

基幹システム開発では、品質の確保やスケジュールの管理がしやすいため、ウォーターフォールが採用されることが多い。しかし、従来のウォーターフォールだと、要件定義で決まった要件のもと開発を進めるため、設計工程以降での仕様変更を取り入れることが難しい。特に我々の出版業界は変革期の真っ只中であり、ユーザーニーズは取り巻く環境の変化によって刻一刻と変わってゆく。これらを踏まえ、基幹システムの開発をウォーターフォール+アジャイルの「ハイブリッド開発」で対応した事例を用いて、開発マネージャとして「ユーザ中心設計」にこだわったプロジェクトを推進した内容を講演する。

[講師略歴]

2012年に大学院を卒業後、野村総合研究所に入社。SEとして証券業界向けシステムの設計・開発に従事。総工数20,000人月以上の大規模プロジェクトマネジメントについても経験。その後、2019年に講談社に入社。現在は社内基幹システムの企画・開発部門に所属し、営業支援システムの企画や、プロジェクトマネジメントに従事。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

B-07

生成AIが拓く次世代Web開発の変革

～実践事例で学ぶ計画・実装・マネジメントの手法～

PMAJ会員活動
WTech SIG

石川 博子 W

生成AI技術の急速な進化により、Webアプリ開発は大きな転換期を迎えている。本講演では、プロジェクト計画段階での最適なAIツール選定基準の策定、リスク評価およびセキュリティ対策、機密情報管理や生成コードの品質維持に関する具体的手法を解説。さらに、要件定義から設計・実装フェーズにおけるAI活用事例を通して、工数削減や業務効率向上を実現する実践的アプローチを紹介。また、進捗管理、リスク予測、チームコミュニケーションの改善など、プロジェクトマネジメント全体の最適化を図る戦略も具体例と共に提案。PMや開発リーダーに即実践可能な知見と効果的な戦略を提供する。

【講師略歴】

福岡大学工学部電子工学科を卒業し、ゲームメーカーへ就職。ゲームメーカーでは、企画開発およびセキュリティ対策、機密情報管理や生成コードの品質維持に関する具体的手法を解説。退職後、エンジニアのフリーランスとして活躍。1998年6月に株式会社エイチアイ・シスを設立。半導体装置開発からWebアプリ開発、AIプロジェクトなどSE、PMとして幅広く数多くのプロジェクトで活躍。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

B-08

Standish Report解説と実践活用のヒント

～成功の重要要因：意思決定スピード、アジリティ～

PMAJ会員活動
PM研究・研修部会

大泉 洋一／田中 繁光／日吉 春華 P

米国の独立系IT研究コンサルティング企業であるStandish Group(スタンディッシュ・グループ、1985年に設立)は、ITプロジェクトの成功・失敗要因の調査・分析で知られている。

同グループでは、世界各国のITプロジェクトを調査し、5万件から成る成功・失敗要因のデータベースを構築し、そのデータベースを用い、成功・失敗要因を科学的・統計的に分析している。従前のプロジェクトマネジメント手法とは、異なる視点を提供している。

本講演では、同レポートの概要紹介に加え、プロジェクトの成功率を上げるための実務上の考慮事項について、実務従事者とのディスカッション形式で掘り下げる。

【講師略歴】

大泉 洋一：株式会社JSOLにて、IT・DXコンサルタントとして、企業のDX推進に従事。
田中 繁光：SOMPOシステムズ株式会社にて、生命保険システムのプロジェクト業務に従事。
日吉 春華：株式会社トヨタシステムズにて、プロジェクトマネージャを担当。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

B-09

PRINCE2第7版の概要紹介

～計画プラクティスの特徴と活用ポイント～

PMAJ会員活動
PM研究・研修部会

木下 雅治 W

PRINCE2は英国政府が開発したプロジェクトマネジメント方法論である。欧州や国際連合をはじめとして世界中で活用されている。今回はPRINCE2第7版の変更点を紹介し、7つのプラクティスの一つである計画プラクティスを取り上げ、その特徴や活用ポイントを紹介する。

PRINCE2は指揮、マネジメント、提供という3つのレベルと、ステージと呼ばれる単位でプロジェクト・ライフサイクルをマネジメントするという特徴がある。計画プラクティスを取り上げることでプロジェクト計画書、ステージ計画書、チーム計画書、例外計画書から3つのレベルと権限委任と許容度の理解を深める。

【講師略歴】

PMAJ PM研究・研修部会会員。損害保険ジャパン、SOMPOシステムズでシステム企画、運用、プロジェクト、業務改革推進業務などに従事。
PRINCE2 Practitioner, ITIL Expert, PMI® 認定PMP®, 修士(システムエンジニアリング学)。

[BS] 戦略及びビジネスマネジメント

B-10

AIエージェントが変革する経営戦略

～プロセスイノベーションが創り出す競争優位性～



電脳バンク株式会社 代表取締役社長

浦田 敏 P

生成AIの革新は、単なる業務自動化を超えた組織変革の鍵です。本講演では、AIエージェントが意思決定プロセスをいかに高度化し、経営判断の質とスピードを向上させるかを探ります。AI(データ)駆動型アプローチによって、組織は従来のプロセスを超えて、創造性と効率性を両立できるようになります。事例を通して、AIと人間の共創がもたらす新たな働き方の可能性を示し、競争優位を築くための実践的戦略を提示します。AIを単なるツールではなく、ビジネス思考の拡張として活用する未来への展望を共有します。

【講師略歴】

2000年に東京大学大学院工学系研究科修士課程修了後、富士通へ入社。金融系のシステム開発に従事。PM、技術コンサル、品質保証部門等を経験。2016年からAIやBlockchain等の技術戦略の策定やAI関連事業の創出に従事。AIを活用したSaaS事業の事業部長を経て退社。電脳バンク株式会社を創業しAI関連のサービスを提供中。

[BS] 戦略及びビジネスマネジメント

B-11

Global Delivery Assurance

～グローバル品質マネジメントシステムの構築～

株式会社NTTデータグループ
品質保証部 課長

豊嶋 淳史 B

NTTデータは2005年より海外進出を本格的に開始し、海外売上やカバーする国や地域を年々伸ばし続けてきた。しかし、企業買収により加わった海外グループ会社が多く、それぞれの国でサービスを提供することはできても、グローバル企業として複数の国や地域で一貫したサービスを提供するのは困難だった。具体的には、

1. 海外グループ各社にはビジネス環境や提供サービスに応じた既存の管理標準がそれぞれ存在していること
2. 日本と海外で価値観が異なること
3. 複数のリージョンに跨る組織連携によるサービスを提供するためのルールやプロセスが欠如していること

という課題があった。そこで、海外グループ会社横断で品質マネジメントシステムの改革を2019年から開始した。本講演では、これらの課題に対してどのような活動を行ってきたかを紹介する。

【講師略歴】

1997年NTTデータ通信株式会社(現在のNTTデータグループ)に入社後、流通業、地方公共団体、省庁、金融機関のお客様向けのシステム開発に従事。その経験を活かし、同社の国内におけるシステム開発標準としてTERASOLUNA、その後、グローバルの標準として、NTT DATA Core Methodologyを整備を主導した。一方、社外においては、2015年より、情報企画調査会SC7/WG7の委員として、システム/ソフトウェアライフサイクルプロセスに関する国際規格(ISO)の策定に携わっている。

[HR] 人材育成・働き方改革

B-12

プロトタイピングで新価値を描く！
イノベーション創出のための
プロジェクトマネジメント大阪大学フォーサイト株式会社
アートワークカリスト プロジェクトマネージャー

加藤 夏来 W

今回のテーマ「次世代の日本を共に描く」ために必要なこととして、イノベーション、つまり新価値創造が求められている。新価値創造は前例が存在せず、プロジェクトマネジメントが非常に困難な分野である。

本講演では、プロジェクトの成功確率を高める新価値創造方法論[Foresight Creation]と、プロジェクトマネジメント手法としての「プロトタイピング」を紹介する。

常に変化を余儀なくされる新価値創造プロジェクトにおいて、プロトタイピングがなぜ重要なのか。プロジェクト設計、調査、価値具現化、検証、開発、提案など、全てのフェーズで活用できる「プロトタイピング」を是非楽しみに。

【講師略歴】

システム工学・デザイン科学にて修士号取得後、大阪ガス行動観察研究所(株)に入社し、行動観察・リサーチを担当。大阪ガスに出入りし、グループ内のDX・業務改革を推進。創業メンバーとして大阪大学フォーサイト(株)に参画。新価値創造のためのコンサルティング、プロトタイピングを行う。大阪大学 非常勤講師。

【HR】人材育成・働き方改革

B-13

プロジェクト協創の ベンダーマネジメントへの転換 ～マインドチェンジをいかに実現するか～



株式会社インサイトパワーズ
代表取締役

辻本 光邦 B

急速に変化するビジネス環境において、従来の「発注者－供給者」関係におけるベンダーマネジメントから、価値を共に創り出す「プロジェクト協創型」のベンダーマネジメントへの転換が迫られている。しかし、その実現には発注側の意識改革が不可欠である。本講演では協創を成功させるためのマインドチェンジに焦点を当て、従来型との違いや適切なベンダーの見極め方、信頼関係の築き方を解説。さらにイノベーションを生み出すための具体的な手法や成功事例を紹介し、実践的なアプローチを学ぶ。これにより、協創型ベンダーマネジメントを実現し、競争力を高めるためのヒントを獲得できる。

【講師略歴】

富士通、米国ケプナー・トリガー社パートナー／日本支社長、日本マイクロソフト執行役員を経て、2010年(株)インサイトパワーズ設立。リーダー育成や経営者コーチングに従事し、多くの企業を支援。時事通信社登録講師、日本エグゼクティブコーチング協会認定プロコーチ。今上陛下が皇太子時代に名誉団員だった俊友会管弦楽団団長。トランペット演奏歴50年。

【HR】人材育成・働き方改革

B-14

プロジェクトマネジメント 選手名鑑 ～PM人材育成計画の作り方～



株式会社マネジメントリユージョンズ
トレーニング事業部 事業部長

横地 真吾

株式会社マネジメントリユージョンズ
トレーニング事業部 プロジェクトマネジメントコーチ

鵜山 武士 CFP P

プロジェクトマネジメント領域のタレントマネジメントを始めましょう。プロジェクトには「変化に敏感で着実な人財」「価値の創造に集中する人財」「アジリティを高めることにこだわる人財」「QC/QDパランスと安定性を保つ人財」など、さまざまなタイプの人財が存在します。それぞれが異なる役割を持ち個性を活かして互いを補完し合っています。あなたの組織にはどのような人財が不足しているのでしょうか。このセッションでは、プロジェクトマネジメント領域のスキルマップを「選手名鑑」のスタイルで紹介し、プロジェクトの人財配置やPM人材の育成計画にぜひお役立てください。

【講師略歴】

横地 真吾：現在、自律的な“個人”と“組織”を開発するPM教育を掲げ、自分で考えるPM／PMOを育成・認定するための実践的な方法や意義・メリットについて講演中
鵜山 武士：複数のPM／PMO業務を経験後現在はプロジェクトマネジメントコーチとして、マネジメント関連研修の企画・作成・講師業務に従事

【HR】人材育成・働き方改革

B-15

コンピテンシーの高い プロジェクトマネジャーを育成する



株式会社プロジェクトマネジメントオフィス
代表取締役

鈴木 道代 CFP P

DXやイノベーションを担当するプロジェクトマネジャーには、当初は具体的な成果が見えないが、最終的には成果を上げるための高いコンピテンシーが求められる。本講演では、コンピテンシーの高いプロジェクトマネジャーの育成について、事例と共に紹介する。コンピテンシー習得のためには、基礎知識習得だけではなく、内省にて、自身のナレッジとして習得していくことが必須である。事象を振り返り、内省し、今後使えるナレッジとするためには、具象と抽象の往復など、概念と形象の世界を往復するコンセプトアルスキルが不可欠である。コンセプトアルスキルの概要と習得について、事例を紹介する。

【講師略歴】

アパレル企業に入社し、データベース管理者、システムエンジニアとして社内システムの開発・マネジメントに携わる。その後、株式会社プロジェクトマネジメントオフィスにて、プロジェクトマネジメント、PMO、コンセプトアルスキルのコンサルティング、セミナー講師、研修講師を担当し、現在に至る。

【HR】人材育成・働き方改革

B-16

P2M 社会人博士取得のススメ



PMAJ会員活動
博士人材と指導教員の醸成SIG

久保 裕史 P

博士号は、万国共通の強力な資格である。ジョブ型雇用への移行段階にある日本でも、ようやくその真価が発揮されようとしている。本講演では、社会人が働きながらP2Mで博士号を取得するための実践的な方法や意義・メリットについて講演する。博士号取得には、権威ある学会論文誌への「有査読論文」の掲載が不可欠である。しかし、研究論文執筆の未経験者にとっては、どこから手をつけばよいのかさえ分からない。「産官学民」での指導経験をもつ講師が、論文執筆の要諦を分かりやすく解説する。一般社団法人国際P2M学会が参画する「博士人材と指導教員の醸成SIG」の活動状況についても紹介する。

【講師略歴】

'79年 名古屋工業大学大学院 修士修了。富士フイルム(株) 記録メディア研究開発部長、特許出願約200件。'09年 名古屋工業大学大学院 博士(工学)。'10年 千葉工業大学 プロジェクトマネジメント学科 教授、研究論文120件、国際会議40件、社会人博士8名輩出。'24年 独)環境再生保全機構 P2M専門職。一社) 外国人材協議会 会長。一社) 国際P2M学会 理事・副会長。

【HR】人材育成・働き方改革

B-17

DXを活用した 新規事業立ち上げプログラム ～P2Mのミッションプロファイリングによる 戦略的アプローチ～



PMマイスター
株式会社彩成コンサルティング 代表取締役社長

濱 久人 B

本講演では、複数の企業において実践してきたDXを活用した新規事業の立ち上げプログラムにおけるDX活用のポイントを解説する。さらに実践にあたっては、P2Mのミッションプロファイリングの考え方を基本に進めており、ミッションプロファイリングをどのように活用しているかについて、活用している手法の適用状況を合わせて解説する。実際に活用している手法は、バリューグラス、バリューカーブ、顧客価値連作分析(CVCA)、ビジネスモデルキャンバスもしくはリーンキャンバス、戦略マップ、ロードマップなどである。

【講師略歴】

建設コンサルタントとして活動後、パナソニックにて、SE、システム企画などを経て、NTTデータユニバーシティで、PMなどの研修を担当。現在は、株式会社彩成コンサルティングを設立して、プログラム&プロジェクトマネジメント、DXなどの講座を中心に複数の企業・機関(PMAJ/JUAS/JST等)や大学・大学院で行っている。

【IN】イノベーション

B-18

AI適用による自治体業務のDX事例 ～滞納整理支援AI～



富士通Japan株式会社 ソーシャルシステム事業本部
クロスインダストリー事業部 マネージャー

繁田 聡一 W

自治体には、職員が身に着けた現場のノウハウに基づいて実施された業務の結果が実績データとして蓄積されています。職員の作業負担軽減が課題となっている滞納整理の業務を対象に、蓄積されている過去の実績データを利活用して、業務の効率化を支援するAIを実現しました。ベテランの職員が持っているノウハウ(判断の拠り所となる着原点など)をヒアリングして学習データの設計に盛り込んだり、試作したAIの推定結果への現場からのフィードバックを設計に反映させたりすることを複数回繰り返しました。どのような考え方やステップで現場に本導入できるAIを実現したかをお話します。

【講師略歴】

2019年からデジタル技術の適用による自治体業務のDX化の実現に向けた実証実験やソリューションの開発に従事。自治体に蓄積されている過去に行われた業務の実績データを利活用して、データから抽出された業務ノウハウを学習したAIを構築するプロジェクトを現場のお客様と対話しながらアジャイル型で実践している。

[PS] プロジェクトマネジメントスキル強化

B-19

世界のPMOの動向

～世界のPMOが直面している課題～


株式会社システムコストマネジメント
顧問

片江 有利 B

PMIがPMO実務家のコミュニティであるPMOグローバルアライアンスを傘下に収めPMOに力を入れています。
2025年2月4日には「Project Management Offices: A Practice Guide」とPMI-PMOCP資格を提供し、PMOバリューリング™フレームワークによるPMOの設立手順、顧客中心のパートナーへの変革の道筋を示しています。
PMIの動向に加え、PMOアワードに見る世界のPMOの好事例、エンタープライズPMOの取り組みを紹介し、PMO人材の育成、日本の課題—縦割り組織との整合等を考察します。

【講師略歴】

大手損保で経営企画、生保事業立上げを歴任。コンサル会社移籍後PM、ITサービス研修講師、独立後もPMのコンサルや研修講師を務める。2006年よりPMI日本支部理事、2020年1月よりPMI日本支部会長、2022年4月よりPMI日本支部監事。PMOグローバルアライアンスアワード審査員を務めている。

改訂4版

P2M

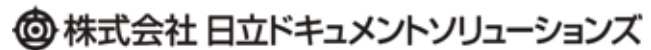
プログラム&プロジェクト
標準ガイドブック

全国の書店にて販売中



価値創造型マネジメントのあるべき姿として「P2M事業モデル」を明示し、事業戦略からプログラム～プロジェクトに至る一連のプロセス全体を事例を含めて分かりやすくかつ実践しやすい体系として提供しています

協賛・パートナー企業



TIS千代田システムズ株式会社

EX-01

「Contruent」を活用した管理会計の紹介
～プロジェクトの複雑なコスト管理を、手間なく正確に行うための新しい手法をご紹介～



TIS千代田システムズ株式会社 事業本部 デジタル事業部
EPMソリューション部

池田 竜太郎

重厚長大な製造業やプロジェクト型業務では、案件ごとのコスト管理が会計システムでは困難、多くの企業がExcelで対応しています。「Contruent」を活用すれば、会計システムと連携し、素早く・手間なく、コストの予実管理や最終予想が可能です。

【講師略歴】

TIS千代田システムズ株式会社にて、鉄道インフラ開発プロジェクト、造船プロジェクト、宇宙・衛星機器開発プロジェクトにおける、プロジェクト管理会計(Contruent)の導入および運用に従事。パッケージ製品機能の調査および活用法の提案、お客様データ投入と製品からのレポート出力の支援、Earned Value Management手法をベースとした各種レポートの構築とお客様へのトレーニング、Primavera P6を利用したキャパシティプランニングの支援を担当。

株式会社アジャイルウェア

EX-02

週休3日で挑む
プロジェクトマネジメントの最適化



株式会社アジャイルウェア
Redmineエヴァンジェリスト

小林 稔央

週休3日でも成果は落ちない!?アジャイルウェアが実践する「働く日を減らして、パフォーマンスを上げる」チーム運営の裏側を公開。心理的安全性・ウェルビーイング・PM手法をどう活かし、生産性を維持・向上させたのか。リアルな事例と工夫を交えてお届けします。

【講師略歴】

大手製造会社で組み込みソフトウェアのPMを務め、8年間、リリース遅延、市場トラブル流出、ともにゼロのチーム運営を行った経験を持つ。また、Redmineエヴァンジェリスト等のコミュニティ活動を通して、3桁に迫るチームへのRedmineの導入、見直しに協力。夢は悩めるすべてのPMや担当者を救済すること。某芸能事務所CEO。

パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社

EX-03

P2Mプロジェクトマネジメント資格をとろう!
～P2M資格(PMC、PMS)と対策講座のご紹介～



パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社
教育ソリューション営業部

中島 貴代子

当シンポジウム主催の日本プロジェクトマネジメント協会が資格試験を実施している、プロジェクトマネジメント資格「P2M」は、「プロジェクトマネジメント」に加え、新規事業創造に必須の「プログラムマネジメント」の知識も身に付く数少ない資格である。そのためIT技術者だけでなく、エンジニアや営業職、学生など幅広い層がチャレンジしている。

ここでは、P2Mの特長のほか、資格体系、試験形式、申込方法や受験資格など、資格取得までの流れを分かりやすく説明する。あわせて、当社のP2M資格試験対策講座シリーズ(eラーニング)を使ったおすすめの学習スケジュールも紹介する。今年は、P2Mガイドブックが改訂4版になったばかり。最新のガイドブックで、P2M資格の取得を目指してみたいかがだろうか。

【講師略歴】

P2M資格試験対策講座には制作から関わり、15年間販売を担当しています。PM人材育成のご相談をお待ちしております。
▼P2M資格試験対策講座シリーズ
<https://www.panasonic.com/jp/business/its/hrd/projectmanagement/p2m.html>
▼そのほかにも幅広く人材育成メニューをご用意しております
<https://www.panasonic.com/jp/business/its/hrd.html>

グローバルプロジェクトデザイン・ジャパン株式会社

EX-04

モデルベースのプロジェクトデザイン
～TeamPortで実践するプロジェクトデザイン～



グローバルプロジェクトデザイン・ジャパン株式会社
代表取締役

池 大

ますます複雑化し、不確実性が増す今日において、プロジェクトプランを一つだけ用意するのはリスクが高い。また、DXの様にインベーションを起こすプロジェクトは、プロジェクトを進めながらプランを柔軟に対応する必要がある。その為には、プロジェクト自体をモデル化することは非常に有益である。今までの様に、ガントチャートで計画するのではなく、プロジェクト自体もモデルで表現しシミュレーションを行いながら、柔軟にプランを作成/修正する必要がある。今回はその方法や実現方法について説明する。

【講師略歴】

グローバルプロジェクトデザイン・ジャパン株式会社代表取締役。IT業界で30年以上の経験。IT関連のプロジェクトにSEおよびコンサルタント、PMとして多数参加。また企業のアジャイル開発導入に向けての教育/支援を行っている。リスクマネジメント協会会員 Certified Risk Manager

PMアソシエイツ株式会社

EX-05

PM教育ツール
「ピンぼっくん」のご紹介
～スマホで学習できる問題集～



PMアソシエイツ株式会社
代表取締役

鈴木 安而

プロジェクトマネジメントに関する教育にはさまざまな形態や手法があります。今回ご紹介するツールは、弊社のノウハウを集結した自習を前提とした教育アプリです。自習でありながら組織として統一性のある学習が実施でき、組織内の学習者のスキルレベルが測定できます。それによって、プロジェクトへの任命や育成の目安とすることができます。紹介するツールは、初級、中級、上級のカテゴリーに分かれていて、それぞれ次のような狙いになっております。

初級:プロジェクトに参加するスタッフを対象:CAPM資格試験対象
中級:PMを目指す人対象:PMP資格試験対象
上級:PM実務者:PMP取得済者対象

【講師略歴】

2006年～ PMアソシエイツ株式会社 代表取締役
1996年～ アドビシステムズ
1970年～ 日本アイ・ビー・エム

株式会社日立アカデミー

EX-06

日立アカデミーのPM教育への
取り組みの紹介
～PMための実践的研修の提供～



株式会社日立アカデミー
研修開発本部/L&D1/LD13G 主任L&Dプランナ

畦元 隼

本講演では、日立アカデミーが提供するPM(プロジェクトマネジメント)教育の取り組みについて紹介する。日立アカデミーは、日立グループの人材育成の中核機関であり、日立ITプロフェッショナル認定制度で定められたPM資格の更新のための研修や、PMの実践的研修を企画・開発・提供している。資格更新研修では、現場の課題を取り入れた研修設計や、学習理論を活用した効果的なカリキュラムにより、PMの継続的なスキル向上を支援する。また、実践的研修では、自身の研修事例を通じて、受講者が現場で直接活用できる研修内容であることを伝える。

【講師略歴】

2009年、株式会社日立製作所に入社し、公共系SIプロジェクトのSEとして10年間従事。PL・PMとしてシステム開発や運用保守、BCP対策、ビル移転に伴うシステム移設を担当。2019年10月、株式会社日立アカデミーに転籍。現在はPM育成教育分野の責任者として、年間延べ受講者数25,000人規模のマネジメントに従事している。

株式会社ウェブアイ

EX-07

ウェブアイが提唱する 次世代プロジェクトマネジメント ～情報統合による全体最適とAI活用の未来～



株式会社ウェブアイ
代表取締役社長

森川 勇治

現代のプロジェクトは関係者の多様化、外部委託の増加、ツールの乱立により、情報の分断と管理の複雑化が深刻化している。ウェブアイは「工程」を情報統合のハブと位置づけ、実績・出来形・ドキュメント・図面・写真・コミュニケーション等をつなぐアプローチを展開している。本講演では他社サービスとの連携事例、SCM・EVM・4D CADとの統合、OCP(Orario Cloud Platform)による全体最適、AI活用の未来展望など、現場実践に基づく統合型プロジェクトマネジメントの可能性をご紹介します。

【講師略歴】

1984年早稲田大学理工学部卒業。同年三井造船入社、1986年アルテミスインターナショナル入社、2000年ウェブアイ設立(現代表取締役社長)。40年間一貫してPMビジネスと研究に従事。早稲田大学、東北大学、フェリス学院大学でPM講師を経て、現在は東北大学大学院博士課程後期で組織学習を研究中。

株式会社Goldratt Japan

EX-08

組織をダメにするのは誰か？ ～チームと職場を腐らせる「会社の害虫」の正体と 対処法～



株式会社Goldratt Japan
CEO

岸良 裕司

・見るのもイヤ! 想像するだけで気分が悪くなる上司
・頑張っても頑張っても、認められない閉塞感
・増え続けるプロジェクトでパタパタな毎日
・威勢のいいスローガンもなく、残念な業績の会社
こんなイヤな空気に辟易(へきえき)して「月曜日、会社に行きたくない!」と思った覚えがあるなら、あなたの会社には「会社の害虫」が潜んでいる可能性がある。このセミナーでは「会社の害虫」の生態の解説と、やってはいけない誤った対策が引き起こす甚大な被害、そして、シンプルな特効薬とケーススタディを紹介する。



会社の害虫
シワヨセ虫

【講師略歴】

全体最適のマネジメント理論TOC(Theory Of Constraint: 制約理論)をあらゆる産業界、行政改革で実践。幅広い成果の数々は、国際的に高い評価を得ている。TOCを開発したゴールドラット博士の側近中の側近として、博士の思索にもっとも影響を与えた一人と言われている。セミナーは楽しく、わかりやすく、実践的との定評があり、ベストセラーも多数出版している。

日本プロジェクトマネジメント協会

EX-09

実践的 プログラムマネジメント経営 ～価値共創時代のイノベティブ企業への秘策～



日本プロジェクトマネジメント協会
理事長

加藤 亨

日本は「縦割り構造」と言われる。それは、組織を維持する点では効果的なのだろう。ある調査では、全世界の200年以上続いている企業の中で日本が占める割合は65%となり、断トツ1位という結果になっている。一方で、スイスのビジネススクールIMDが行っている国際競争力ランキングでは、2024年の日本は、67か国中38位と過去最低を更新する結果となっている。この大きな要因は、「組織を維持する縦割り組織」ではビジネスの成果を高める(目的を達成する)意識が阻害されるからだと考えている。本講演では、プログラムマネジメント的経営により、日本企業の活性化を図る秘策について紹介する。

【講師略歴】

1978年 千代田化工建設(株)入社後、同社の様々な情報化プロジェクトを担当。同社グループ企業の執行役員、取締役、社長を歴任。2019年7月より日本プロジェクトマネジメント協会理事長に就任し現在に至る。PMAJ公認PMS、米国PMI公認PMP、技術士(情報工学部門、総合技術監理部門)、情報処理技術者試験システムアナリストなど

P2M事業モデルとプリンシプル



2025年度PMセミナー開催

関西PMセミナー
2025年6月6日(金)
大阪 マイドームおおさか

中四国PMセミナー
2025年10月24日(金)
広島 YMCA国際文化センター

九州PMセミナー
2025年12月5日(金)
福岡 電気ビル共創館

各地域の
PMセミナーを開催し、
地域の情報を
日本全国に発信!!

北海道PMセミナー
2025年7月18日(金)
札幌 札幌市教育文化会館

東北PMセミナー
2025年5月16日(金)
仙台 フォレスト仙台

新しい教養P2Mセミナー
2025年11月14日(金)
東京 タワーホール船堀

新春PMセミナー
2026年1月23日(金)
東京 タワーホール船堀

中部PMセミナー
2025年10月10日(金)
名古屋 ウィンクあいち

地図出典: イラストストック

● お申込み区分と視聴できる講演及び視聴期間

下表の●が付いた講演を記載された期間にご視聴いただけます。

お申込み		会場参加・ライブ配信		オンデマンド配信			
お申込区分 (括弧内は申込期間)		Day1ライブ (9/4開催) 基調講演 特別講演	Day2ライブ (9/5開催) 基調講演 特別講演	Day1 基調講演 特別講演	Day2 基調講演 特別講演	Day1 一般講演	Day2 一般講演
早期割引申込 (~7/31) 通常申込 (8/1~8/26)	Day1	●9/4		●9/6~10/3		●9/4~10/3	
	Day2		●9/5		●9/7~10/3		●9/5~10/3
	2日間通し	●9/4	●9/5	●9/6~10/3	●9/7~10/3	●9/4~10/3	●9/5~10/3
オンデマンド配信のみ (8/27~9/30)	Day1			●9/6~10/3		●9/4~10/3	
	Day2				●9/7~10/3		●9/5~10/3
	2日間通し			●9/6~10/3	●9/7~10/3	●9/4~10/3	●9/5~10/3

● ライブ配信・オンデマンド配信には、Zoomを採用

■事前に視聴環境の確認をお願いします。

ネット接続ができる環境で、PC・スマホ・タブレットなどから視聴できます(画面はフルHDで配信する予定です)。

視聴にはZoomアプリが必要ですので、お申込みの前に(Zoom提供のテストページ)にて接続確認テストをしてください。

当日、お客様の通信サービスや利用機器、ブラウザなどの影響により、視聴ができない場合、PMAJでも対応ができかねる場合がございますのでご了承ください。

● ライブ講演を会場で受講する場合

■Day1、Day2それぞれ会場で受講いただけます。申込時に会場参加を選択してください。

● ライブ配信・オンデマンド配信を問わず、配信内容の録画・録音、ならびに正規申込みされた方以外の視聴は禁止とします。

■講演動画の著作権は、講演者およびPMAJに帰属しており、この動画の一部分または全部を著作権者に無許可で使用することは、著作権法に反することとなります。

● 最新情報はPMAJの公式WEBページにて随時更新します。

■詳細情報につきましては、下記URLからご確認ください。



<https://www.pmaj.or.jp/sympo/2025/index.html>

● 会場ご案内

タワーホール船堀5階「大ホール」の受付にお越し下さい。



東京都江戸川区船堀 4-1-1 TEL.03-5676-2211

展示コーナー、PMAJ20周年記念展示・休憩コーナー・懇親会についてご案内します。

● 展示コーナー(5階ロビー)

スポンサー企業及びPMAJによる展示を5階ロビーにて行います。プロジェクト管理の技法・ツール・ソフトウェアの紹介、PM資格の取得・活用、プロジェクト・マネージャー育成などに関する出版物・教材・資料などが展示されます。また、飲み物コーナーを併設しますので、お気軽にお立ち寄り下さい。

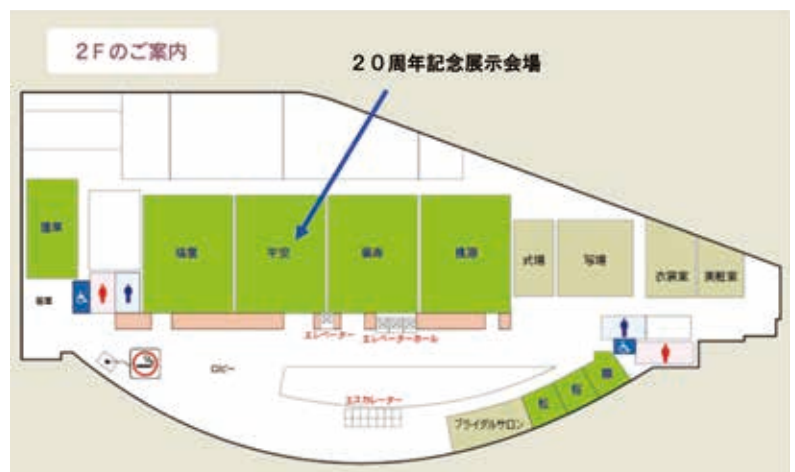
なお、スポンサー企業による講演を「共通講演」としてオンデマンド配信します。本パンフレットのP15、P16に講演概要をご案内しています。PMシンポジウム2025に申しこまれた方は、どなたでも無料で視聴できますので、是非ご視聴願います。



● PMAJ20周年記念展示・休憩コーナー(2階『平安』)

2階『平安』にて、PMAJ20周年を記念して、過去のPMシンポジウムのポスターの展示、PMAJの活動紹介、出版物などの展示を行います。是非ご来場頂きますようお願いいたします。

また、会場内には机を設置し、休憩コーナーとしてご利用いただけます。当日の講演内容をリアルタイムで放映致しますので、ご活用下さい。



● 懇親会(2階『瑞雲』)

9月4日(木)Day1終了後の17時50分から、2階『瑞雲』にて懇親会を開催します。講師・参加者・PM関係者と交流し、PMコミュニティ活性化の場としてご活用下さい。PMシンポジウム2025にお申込みの方は、どなたでも無料で参加できますので是非お越し下さい。参加希望の方は、受付システム入力時に「懇親会参加」にマークしてください。



お申込み方法

WEBページにてお申込みを受付けます。『PMシンポジウム2025』のご案内ページをご参照ください。

<https://www.pmaj.or.jp/sympo/2025/index.html>



参加申込み期間・お支払い方法

	早期割引申込	通常申込	オンデマンド配信のみ申込
申込期間	～7月31日(木)	8月1日(金)～8月26日(火)	8月27日(水)～9月30日(火)
支払期限	～8月5日(火)	8月28日(木)	・クレジット払いのみです。 ・申込受付後2営業日以内に決裁願います。 ・決済確認後2営業日以内に視聴用URLを送付します。

お申込み受付後、電子メールにて参加費等を記載したお申込み受付確認メールをお送りいたします。

また、お振込み時には、参加者名及び電子メール(受付確認メール)に記載のお申込み番号を必ずご記入ください。

※クレジットカードご利用の場合の手続きは、WEBページに記載しています。

※企業名でお振込みの場合は、事前に参加者名及びお申込み番号を事務局までお知らせください。

※請求書払いをご希望の場合は、余裕をもってお申込み願います。

※請求書・領収書はすべてメール添付での送付となります。

※恐れ入りますが振込み手数料はご負担ください。

※お申込み後のキャンセル手続きは、WEBページに記載しています。

口座名：三菱UFJ銀行 本店 普通 0737079
名義人：特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
トクビニホンプロジェクトマネジメントキョウカイ

お問い合わせ

日本プロジェクトマネジメント協会・事務局

E-mail : admi-sympo-cs@pmaj.or.jp TEL.03-6234-0551 FAX.03-6234-0553

参加費

注) 参加申込み時にPMAJに入会申込みの場合は会員扱いとなります。入会ご希望の方は、下記URLからお手続きください。

<https://www.pmaj.or.jp/kyoukai/nyuukai.html>

(上段：税込価格、下段：消費税10%)

	早期割引 〔～7月31日(木)〕			通常申込 〔8月1日(金)～8月26日(火)〕			オンデマンド配信のみ申込 〔8月27日(水)～9月30日(火)〕		
	Day1	Day2	Day1、Day2 通し	Day1	Day2	Day1、Day2 通し	Day1	Day2	Day1、Day2 通し
PMAJ個人会員	11,990円 (1,090円)	11,990円 (1,090円)	23,300円 (2,118円)	14,000円 (1,272円)	14,000円 (1,272円)	26,000円 (2,363円)	25,500円 (2,318円)	25,500円 (2,318円)	48,000円 (4,363円)
PMAJ法人正会員の職員	14,500円 (1,318円)	14,500円 (1,318円)	28,200円 (2,563円)	19,000円 (1,727円)	19,000円 (1,727円)	33,000円 (3,000円)			
PMC、PMS、PMR有資格者	17,000円 (1,545円)	17,000円 (1,545円)	33,300円 (3,027円)	20,000円 (1,818円)	20,000円 (1,818円)	38,000円 (3,454円)			
ENAA賛助会員/後援・協賛 団体の職員、PMI会員、 ITC資格者、技術士会員	23,300円 (2,118円)	23,300円 (2,118円)	42,600円 (3,872円)	25,000円 (2,272円)	25,000円 (2,272円)	45,500円 (4,136円)			
一般参加者	23,800円 (2,163円)	23,800円 (2,163円)	46,000円 (4,181円)	25,500円 (2,318円)	25,500円 (2,318円)	48,000円 (4,363円)			
学 生	無 料 学生を本分とする方(社会人学生は対象となりません)。要学生証提出。証明書等は発行いたしません。								

*PMシンポジウム2025に参加申込された方は、懇親会は無料です。

Day1 —— 【内容】基調講演+特別講演 会場参加：9月4日、ライブ配信：9月4日／オンデマンド配信：9月6日～10月3日
一般講演 オンデマンド配信：9月4日～10月3日

Day2 —— 【内容】基調講演+特別講演 会場参加：9月5日、ライブ配信：9月5日／オンデマンド配信：9月7日～10月3日
一般講演 オンデマンド配信：9月5日～10月3日



PMAJ

特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
Project Management Association of Japan (PMAJ)

日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)は、P2Mの資格試験や講習会、PMAJ会員のための定例の勉強会、PM研修、機関誌(PMAJジャーナル)の発行等を通じて実践的PMの普及活動を行っています。

このPMシンポジウムも会員によるPM実践の場として、多くのボランティアメンバーを交え企画運営されています。